

オリパラ基本推進調査
(登録自治体間の連携促進・取組の共有)

成果報告書

株式会社読売旅行

令和2年3月

目次

第1章	調査の概要	
1.	調査の目的	4
2.	実施内容	
(1)	フィールドグループの選定	5
(2)	相手国からの招へい者の選定	5
(3)	調査対象プロジェクトの実施	6
(4)	アンケート調査等の実施	6
(5)	成果のとりまとめ	6
第2章	フィールドグループの実施報告	
1.	調査対象プロジェクトの概要	7
2.	各フィールドグループの実施報告	
(1)	ドイツ・グループ	8
(2)	カリコム・グループ	12
(3)	ニュージーランド・グループ	16
3.	成果報告会（令和2年2月20日付で中止決定）	
(1)	実施概要	20
(2)	開催内容	20
(3)	備考	21
(4)	制作物	21
第3章	調査結果の総括	
1.	成果分析の概要	
(1)	ドイツ・グループ	22
(2)	カリコム・グループ	22
(3)	ニュージーランド・グループ	23
2.	各調査プロジェクトの評価	
(1)	ホストタウン内への波及効果	23
(2)	事業実施により達成できた目標	24
(3)	相手国への波及効果	24
(4)	2020年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与	24
3.	自治体連携の横断的分析	
(1)	事業実施経費	25
(2)	事業実施体制・フロー	25

4. 他のホストタウンへの普及・展開に向けた提案	
(1) 若年層の国際交流による地域の活性化	26
(2) ホストタウン自治体の横連携による交流の深度化	26
(3) メディアを活用した PR 活動	27
5. 好事例	
(1) ドイツ・グループ	28
(2) カリコム・グループ	33
(3) ニュージーランド・グループ	36

【アンケート資料】

(1) 3 グループ集計版	40
(2) ドイツ・グループ	41
(3) カリコム・グループ	49
(4) ニュージーランド・グループ	64

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、スポーツ立国やグローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げている。

ホストタウンについては、令和元年7月2日現在で346件、414の地方公共団体が登録されており、この多くは具体的な取組を開始している。共通の相手国をもつ複数のホストタウン自治体間で連携した取組も一部に見られる。

今回の調査は下記3点を目的として実施する。

- (1) 2020年を超えたホストタウンと相手国・地域の絆を確固たるものにするため、継続した交流を幅広い世代を巻き込んだ形で実施する。
- (2) 同一の相手国・地域をもつ複数のホストタウンが連携し、相手国から子どもたちを招へいし、ホストタウンの子どもたちと交流を図ることで、末永く交流するモデルを提示する。
- (3) 複数のホストタウンが連携した取組が単独自治体で事業を実施するよりも効果的であることを実証するため、費用面・手続面での事務量の比較を行い、少ない予算でも効果的な交流を行うために必要な仕組みを抽出する。

2. 実施内容

本調査は、ホストタウン事業を推進するため、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局（以下「主管事務局」と呼ぶ。）の監督の下、前述の「1. 調査の目的」の趣旨に合致すると思われる調査（以下「調査対象プロジェクト」という。）を以下のとおり実施した。

(1) フィールドグループの選定

5以上のホストタウンを有する国・地域の中から、調査対象プロジェクトが実施可能な国・地域を3つ選定（以下「選定国・地域」という。）し、主管事務局が以下の要領で公募を実施した。

- ① 選定国・地域を相手国・地域とするホストタウンが3以上連携したグループ（フィールドグループ）を形成。
- ② フィールドグループは、相手国・地域の少年（中学生相当）をおおむね10名（引率者を含む。学生の構成は男女半々程度。）を招へいし、フィールドグループを構成する各ホストタウンの中学生15名程度（グループを構成するホストタウンからの参加者数のバランスは考慮する必要はないが、各1名以上は参加。）との交流事業（招へい者の日本での滞在は5日程度。）を実施。
- ③ 交流事業を実施する場所を受入ホストタウンの有する施設等の中から設定すること。フィールドグループを構成する各ホストタウンの中学生と招へい者が原則同じ場所で宿泊できるようにする（宿泊は、ホストタウン内のホームステイ、合宿施設利用などを利用）。
- ④ 相手国・地域からの招へい者とフィールドグループからの参加者の絆が深まり、お互いの文化等を理解し合える有効な交流プログラム（具体的な交流事業の行程表を作成する。）を計画。なお、交流プログラムにおいては、フィールドグループの住民との交流や、フィールドグループの独自の食、文化、スポーツ等を盛り込んだユニークなものとした。

(2) 相手国からの招へい者の選定

招へい者の選定は、フィールドグループが行うこととし、主管事務局や相手国・地域の大使館及び青少年団体等と連携して、招へい者の選定の支援を行う。

(3) 調査対象プロジェクトの実施

相手国・地域からの招へい者とフィールドグループからの参加者の絆が深まり、お互いの文化等を理解し合える有効な交流プログラムについて、フィールドグループの意向・ニーズを踏まえて実施計画書を作成し、その内容を基本にプロジェクトを実施。

(4) アンケート調査等の実施

参加者及び相手国・地域からの招へい者に対し、複数自治体が連携した取組を行うことで得られる利便性や反対に負担に感じる点のほか、自治体関係者に対し単独ホストタウンで相手国関係者を招へいする事例と比較し、費用面・手続面での事務量の比較を行い、少ない予算でも効果的な交流を行うために必要な仕組みを抽出するアンケート調査を実施。

(5) 成果のとりまとめ

今回の調査事業の成果のとりまとめは、そのモデルが他のホストタウンの事業を多様化・深度化に資することに留意する。そのため下記の2項目に分けてとりまとめを行った。

① フィールドグループの実施報告

- 調査対象プロジェクトの概要
- 各フィールドグループの実施報告

② 調査結果の総括

- 成果分析の概要
- 各調査プロジェクトの評価
- 自治体連携の横断的分析
- 他のホストタウンへの普及・展開に向けた提案

さらに複数自治体で連携した取組を2分程度の映像記録と概要資料にまとめ広く自治体で共有できるようにした。

第2章 フィールドグループの実施報告

1. 調査対象プロジェクトの概要

主管事務局およびフィールドグループの代表ホストタウンと構成ホストタウンとの協議を踏まえて決定した調査対象プロジェクトの概要は以下の通りである。

	フィールドグループ		調査対象プロジェクト概要
(1)	代表 構成 構成 構成	愛知県豊橋市 東京都青梅市 宮崎県延岡市 兵庫県豊岡市	ドイツ連邦共和国ハンブルグ社団法人 エイムスビューッテル体操連盟の学生を 招いて、同年代のホストタウン学生と の交流。柔道交流、スポーツ交流、日 本文化体験、日本食体験、応援幕の作 成など。
(2)	代表 構成 構成 構成	鹿児島県大島郡徳之島町 鹿児島県大島郡与論町 鹿児島県大島郡和泊町 鹿児島県大島郡知名町	セントビンセント・グレナディーン のパラアスリート候補とアンティグア・ バーブーダのスティールパン奏者の学 生を招いて、同年代のホストタウン学 生との交流。スポーツ交流、音楽交 流、日本文化体験、日本食体験など。
(3)	代表 構成 構成 構成	千葉県市原市 神奈川県厚木市 山形県酒田市 岡山県倉敷市	ニュージーランドの男子学生サッカー チームとマオリ女子学生を招いて、同 年代のホストタウン学生との交流。 プレゼンテーション、昔あそび体験、 日本食体験、応援ツール風の作成、サ ッカー交流など。

次ページ以降の「各フィールドグループの実施報告」には、下記の共通項目について記載する。

- ① フィールドグループ構成
- ② 事業内容
- ③ アンケート結果
- ④ プロジェクト実施状況の映像
- ⑤ ホストタウン内外への波及効果

2. 各フィールドグループの実施報告

(1) ドイツ・グループ

① フィールドグループ構成

代表ホストタウン愛知県豊橋市に、構成ホストタウンの兵庫県豊岡市と宮崎県延岡市の中学生が集まり、ドイツ学生との交流を実施。その後、ドイツ学生は構成ホストタウンの東京都青梅市を訪問して交流。

※台風 19 号により豊岡市は参加取消、延岡市は宿泊数を短縮して参加

② 事業内容

ドイツ連邦共和国ハンブルグ社団法人エイムスビューッテル体操連盟の学生 5 名を招いて、同年代のホストタウン学生との交流。

柔道交流、スポーツ交流、日本文化体験、日本食体験、応援横断幕の作成などを実施。

【日程】令和元年 10 月 11 日(金)から 10 月 16 日(水)の 6 日間

日時	実施内容	参加自治体
10 月 11 日 (金)	高師台中学校で柔道交流 豊橋市長表敬訪問	豊橋市
10 月 12 日 (土)	※台風 19 号上陸により野外プログラム中止 ※宿泊先を研修施設からホテルへ変更 夕食交流会	豊橋市
10 月 13 日 (日)	豊川稲荷訪問 のんほいパーク (SDGs 取組紹介) 五平餅作り体験 応援横断幕作成	豊橋市 延岡市
10 月 14 日 (月)	市民スポーツ交流 (ボッチャなど) バイオマス施設訪問 (SDGs 取組紹介) 二川本陣資料館の文化体験	豊橋市 延岡市
10 月 15 日 (火)	講道館訪問 新国立競技場周辺散策 武蔵御嶽神社にて太々神楽鑑賞 地元中学生と交流	青梅市
10 月 16 日 (水)	武蔵御嶽神社参拝 御嶽山ハイキング 青梅市長表敬訪問 東京スカイツリー訪問	青梅市

③ アンケート結果

- 自治体関係者アンケートによると、「意義のある交流ができた」と100%が回答。特に若い世代のスポーツ・文化交流を進めることはグローバル人材育成において効果があり、ドイツのホストタウン自治体が横連携で招へい事業を実施できたことは貴重であるとコメント。また横連携の費用面では「非常に安い・安い」と回答した自治体が50%にのぼり、手続面の事務量でも「簡潔」との回答が30%ある。一方で課題として、手続面で「変わらない」20%、「煩雑」40%など代表ホストタウンを中心に事務量が増えていることが判明。手配面では子ども対象の場合はアレルギー調査だけでなく食べ物の好き嫌いも事前に調べる必要がある。
- 参加中学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と「再参加希望」の回答が100%。言葉は十分伝わらなくてもドイツ中学生との文化・スポーツ交流が貴重な経験であると同時に、他自治体の中学生との交流も刺激があったことがうかがわれる。一方で課題としては、ホストタウンの取組認知率は42.8%と低い。
- 招へい学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と「再参加希望」が100%。同年代の中学生との各種交流は異文化を知る有益な機会であると回答。

④ プロジェクト実施状況の映像



⑤ ホストタウン内外への波及効果

2019年10月12日(土) 読売新聞 朝刊全国版社会面

元氣ニッポン!

東京五輪・パラリンピックに向け、ドイツのホストタウンに登録されている愛知県豊橋市の市立高師台中学校で11日、ドイツの訪問団が柔道を体験し、中学生たちと交流を深めた。写真。

読売新聞が2020年とその先へ向けて展開する「元氣、ニッポン！」プロジェクトの一環で、ドイツ・ハンブルクの社団法人エイムスビュッテル体協連盟の13〜16歳の5人がこの日、来日した。5人は柔道着に着替えて高師台中の柔道部の生徒たちと組み合い、抑え込みなどを練習し、最後は試合を行った。

柔道の経験があるという訪問団のエミリー・サミラ・ラセックさん(13)は「柔道を通して交流できてうれしい」と話していた。



読売新聞オンライン

https://genki-nippon.yomiuri.co.jp/event/event_3/20191012.html/



 最新情報

 イベント

 スペシャル

[読売新聞](#)

[トップページ](#) > [ドイツの訪問団](#) > [柔道で国際交流](#)

ドイツの訪問団 柔道で国際交流

2019年10月12日



東京五輪・パラリンピックに向け、ドイツのホストタウンに登録されている愛知県豊橋市の市立高師台中学校で11日、ドイツの訪問団が柔道を体験し、中学生たちと交流を深めた。

読売新聞が2020年とその先へ向けて展開する「元氣、ニッポン！」プロジェクトの一環で、ドイツ・ハンブルクの社団法人エイムスビュッテル体協連盟の13〜16歳の5人がこの日、来日した。5人は柔道着に着替えて高師台中の柔道部の生徒たちと組み合い、抑え込みなどを練習し、最後は試合を行った。

柔道の経験があるという訪問団のエミリー・サミラ・ラセックさん(13)は「柔道を通して交流できてうれしい」と話していた。

(2) カリコム・グループ

① フィールドグループ構成

代表ホストタウン鹿児島県大島郡徳之島町に、カリコム諸国よりセントビンセント・グレナディーンとアンティグア・バーブーダの学生を招へいして地元中学生との交流を実施。その後、セントビンセント・グレナディーンの学生は沖永良部島の構成ホストタウン和泊町と知名町を訪問して交流。アンティグア・バーブーダの学生は構成ホストタウン与論町を訪問して交流。

② 事業内容

セントビンセント・グレナディーンのパラアスリート含む学生2名とアンティグア・バーブーダのスティールパン奏者の学生2名を招いて、同年代のホストタウン学生との交流。

文化交流、スポーツ交流、日本食体験などを実施。

【日程】令和元年11月22日(金)から11月28日(木)の7日間

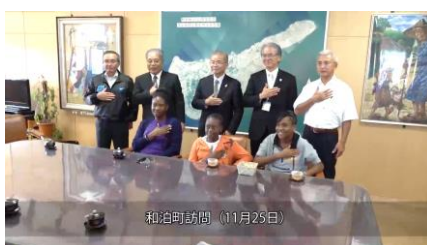
日時	実施内容	参加自治体
11月22日 (金)	徳之島空港出迎え 井之川中学校交流会 徳之島町ジュニアリーダー交流会 ※台風27号により宿泊先をホテルへ変更	徳之島町
11月23日 (土)	※台風27号のため屋外活動は中止 プログラミング・VR体験	徳之島町
11月24日 (日)	[セントビンセント・グレナディーン] 地元中学生によるエコツアー 夏目踊り体験	徳之島町
	[アンティグア・バーブーダ] 与論島出迎え ホストファミリー宅へ	与論町
11月25日 (月)	[セントビンセント・グレナディーン] 和泊町役場訪問 城ヶ丘中学校交流会 知名町役場訪問 スポーツ交流	和泊町 知名町
	[アンティグア・バーブーダ] 琴平神社訪問、百合ヶ浜訪問 プレゼン大会実施 フットサル交流	与論町

11月26日 (火)	[セントビンセント・グレナディーン] 沖永良部空港から羽田空港へ	和泊町 知名町
	[アンティグア・バーブーダ] 那間小学校交流会 与論中学校交流会 こども園訪問・交流	与論町
11月27日 (水)	[セントビンセント・グレナディーン] 羽田空港から帰国の途へ	
	[アンティグア・バーブーダ] こども園訪問・交流 与論空港から羽田空港へ ※バードストライクにより鹿児島経由から 那覇経由にフライト変更	与論町
11月28日 (木)	[アンティグア・バーブーダ] 羽田空港から帰国の途へ	

③ アンケート結果

- 自治体関係者アンケートによると、「意義のある交流ができた」と100%が回答。各町ではグローバル人材育成を目標に掲げており、子ども同士の国際交流の拡大に期待をしている。横連携の費用面では「非常に安い・安い」と回答した自治体が50%にのぼり、手続面の事務量でも「非常に簡潔・簡潔」との回答が50%ある。一方で課題としては、手続面で「変わらない」12.5%、「煩雑」25%と代表ホストタウンを中心に事務量が増えていることが判明。
- 参加中学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と「再参加希望」の回答が98.4%。カリコムのパラリンピック候補選手やスティールパン奏者の学生との交流は、英語を使った初めての経験として自信となる。一方で課題としては、ホストタウンの取組認知率は56.48%と低い。
- 招へい学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と「再参加希望」が100%。同年代の学生との交流プログラムは入念に準備されており満足 of いくものであり、ICT 体験など教育的な見地から有益な機会であると回答。一方で課題としては来島するまでの長時間のフライトが子どもには負担となっている。

④ プロジェクト実施状況の映像



⑤ ホストタウン内外への波及効果

2019年11月23日(土) 読売新聞 朝刊全国版社会面



東京五輪・パラリンピックを前に、カリブ海の島国2か国の訪問団が22日、鹿児島県徳之島を訪れ、中学生らと音楽を通じて交流を深めた。訪問団は、セントビンセント・グレナディーン、アンティグア・バーブーダの音楽家や選手ら13〜32歳の6人。徳之島はセントビンセント・グレナディーンのプロジェクトのホストタウンに登録されている。

町立井之川中では生徒約20人が伝統楽器「三線(さんしん)」を弾きながら、日本のヒット曲「海の声」を合唱。訪問団はカリブ海諸国で親しまれている打楽器「スチールパン」を演奏し、軽やかな音色を響かせた。走り高跳びでパラリンピック出場を目指すカリファ・カーディン・ブルズさん(14)は「三線を演奏してみることができた。日本の文化を楽しむことができて良かった」と話していた。

ホストタウンと各国との交流は国が各地で行っており、読売新聞は2020年とその先へ向けて展開する「元氣、ニッポン」プロジェクトの一環として協力している。

読売新聞オンライン

https://genki-nippon.yomiuri.co.jp/event/event_3/20191123.html/



元氣ニッポン! 最新情報 イベント スペシャル 読売新聞

トップページ > カリブ海訪問団と交流

カリブ海訪問団と交流

2019年11月23日



東京五輪・パラリンピックを前に、カリブ海の島国2か国の訪問団が22日、鹿児島県徳之島を訪れ、中学生らと音楽を通じて交流を深めた。訪問団は、セントビンセント・グレナディーン、アンティグア・バーブーダの音楽家や選手ら13〜32歳の6人。徳之島はセントビンセント・グレナディーンのプロジェクトのホストタウンに登録されている。

町立井之川中では生徒約20人が伝統楽器「三線(さんしん)」を弾きながら、日本のヒット曲「海の声」を合唱。訪問団はカリブ海諸国で親しまれている打楽器「スチールパン」を演奏し、軽やかな音色を響かせた。走り高跳びでパラリンピック出場を目指すカリファ・カーディン・ブルズさん(14)は「三線を演奏してみることができた。日本の文化を楽しむことができて良かった」と話していた。

ホストタウンと各国との交流は国が各地で行っており、読売新聞は2020年とその先へ向けて展開する「元氣、ニッポン」プロジェクトの一環として協力している。

(3) ニュージーランド・グループ

① フィールドグループ構成

代表ホストタウン千葉県市原市に、構成ホストタウンの神奈川県厚木市、山形県酒田市、岡山県倉敷市の中学生を集めて交流を実施。厚木市は別途学生を招へいして市原市の交流に合流。

② 事業内容

市原市がニュージーランドの男子学生サッカーチーム 22 名（オークランドユナイテッド FC アカデミー）を、厚木市がマオリ女子学生 3 名（ワイヌイオマタハイスクール）を招へいして、同年代のホストタウン学生との交流。昔遊び体験、日本食体験、応援ツール風の作成、サッカー交流など。

【日程】 令和 2 年 1 月 8 日(水)から 1 月 14 日(火)の 7 日間

日時	実施内容	参加自治体
1 月 8 日 (水)	[オークランドユナイテッド FC アカデミー] 市原市着、京葉高校合宿所へ	市原市
1 月 9 日 (木)	[オークランドユナイテッド FC アカデミー] 京葉高校交流会	市原市
	[ワイヌイオマタハイスクール] 厚木市着、ホストファミリー宅へ	厚木市
1 月 10 日 (金)	[オークランドユナイテッド FC アカデミー] ジェフユナイテッドジュニア交流試合	市原市
	[ワイヌイオマタハイスクール] 藤塚中学校交流会、藍染め体験	厚木市
1 月 11 日 (土)	4 市共同交流プログラム 各市プレゼンテーション 昔遊び体験（こま、竹馬、縄跳び） 餅つき体験、太巻き寿司作り マオリフォークソング練習	市原市 厚木市 酒田市 倉敷市
1 月 12 日 (日)	4 市共同交流プログラム 応援ツール風作成 風あげ体験 解散式	市原市 厚木市 酒田市 倉敷市
1 月 13 日 (月)	[ワイヌイオマタハイスクール] 食品サンプル体験 オリンピックミュージアム見学	厚木市
1 月 14 日 (火)	[ワイヌイオマタハイスクール] ※NZ 航空の遅延により 1/15(水)帰国に変更	厚木市

③ アンケート結果

- 自治体関係者アンケートによると、「意義のある交流ができた」と100%が回答。いずれの自治体もグローバル人材育成に力を入れており、今回のようなスポーツ・文化交流を通した青少年交流をさらに進めたい意向をもっている。横連携の費用面では「非常に安い・安い」と回答した自治体が83.3%にのぼり、手続面の事務量でも「非常に簡潔・簡潔」との回答が66.6%ある。一方で課題としては、手続面で「煩雑」が33.3%と代表ホストタウンを中心に事務量が増えていることが判明。
- 参加中学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と「再参加希望」の回答が100%。招へい学生25名に対して、参加中学生が15名ということもあり、各種交流プログラムにおいて活発な英語でのコミュニケーションが図られる。また横連携の学生とも新しい友人が生まれている。またホストタウンの取組認知率は80%と他グループと比較して高い。
- 招へい学生アンケートによると、「交流が楽しかった」と100%が回答。「再参加希望」は96.3%。日本の文化体験プログラムは交流を目的に入念に準備されており忘れられない体験となる。特に厚木市はホームステイのバディである学生と5日間過ごすことで満足度が高い。

ホストタウン横連携
ニュージーランドグループ
の取り組みについて



⑤ ホストタウン内外への波及効果

2020年1月12日(日) 読売新聞 朝刊全国版社会面

満作の北に勝った。の避難指示は今春、がら初めて解除され、2年後の住民帰還しており、伊沢由朗「いつか本来の場所を再開したい」と話している。

読売新聞オンラインに動画



**NZの子供たち
中学生らと交流**

東京五輪・パラリンピックを前に、ニュージーランド(NZ)の子供たちが11日、ホストタウンの千葉県市原市と隣の長柄町を訪れ、日本の昔ながらの遊びや文化を通じて、中学生らと交流した。写真

訪問団はサッカークラブ「オークランドユナイテッドFC」アカデミー所属の小学5、6年生の選手や、神奈川県厚木市にホームステイ中の高校生ら計25人。日本側から参加した市原市と長柄町、NZのホストタウンの厚木市、山形県酒田市、岡山県倉敷市の中学生計21人と一緒に、けん玉や長縄跳び、竹馬のほか、餅つきなどを体験した。サッカーで五輪に出場するのが夢というルカ・オースティン君(12)は「日本の伝統的な遊びができて楽しかった」と話していた。

イベントは、読売新聞が2020年をその先へ向け展開する「元氣、ニッポン」プロジェクトの一環で実施された。

読売新聞 オンライン

直径55センチ、重さ5キログラムの巨大焼きまんじゅう。神社で振る舞う

八代盆地にナベツルが順調に飛来。3季ぶりに2桁の10羽に

紙面ビューアーは読者会員登録

社説

読売新聞

読売新聞

読売新聞オンライン

https://genki-nippon.yomiuri.co.jp/event/event_3/20200112.html/



最新情報



イベント



スペシャル

読売新聞

トップページ > NZの子供たち 中学生らと交流

NZの子供たち 中学生らと交流

2020年01月12日



東京五輪・パラリンピックを前に、ニュージーランド(NZ)の子供たちが11日、ホストタウンの千葉県市原市と隣の長柄町を訪れ、日本の昔ながらの遊びや文化を通じて、中学生らと交流した。

訪問団はサッカークラブ「オークランドユナイテッドFC」アカデミー所属の小学5、6年生の選手や、神奈川県厚木市にホームステイ中の高校生ら計25人。日本側から参加した市原市と長柄町、NZのホストタウンの厚木市、山形県酒田市、岡山県倉敷市の中学生計21人と一緒に、けん玉や長縄跳び、竹馬のほか、餅つきなどを体験した。サッカーで五輪に出場するのが夢というルカ・オースティン君(12)は「日本の伝統的な遊びができて楽しかった」と話していた。

3. 成果報告会（令和2年2月20日付で中止決定）

(1) 実施概要

主管事務局が開催を予定していた「ホストタウンサミット 2020」の全体概要は以下のとおり。（令和2年2月20日付で中止決定）

正式名称	ホストタウンサミット 2020
開催日時	令和2年2月22日(土) 11:00~18:00
会場	武蔵野大学有明キャンパス 東京都江東区有明 3-3-3
主催	内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局

今回の成果報告会は「ホストタウンサミット 2020 サイドイベント」として開催。開催概要は以下のとおり。

名称	オリパラ基本推進調査(ホストタウン自治体の連携による子ども達の交流)報告会
開催日時	令和2年2月22日(土) 16:00~17:00
会場	武蔵野大学有明キャンパス 1号館2階207号室
主催	内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
発表自治体 (予定)	ドイツ：豊橋市、青梅市、延岡市 カリコム：徳之島町、与論町、和泊町、知名町 ニュージーランド：市原市、厚木市、酒田市、倉敷市
聴講自治体 (予定)	箕面市、三沢市、川越市、羽島市、豊岡市、岡山市、君津市、北中城村、静岡市、天城町、三島市、鹿屋市、福島市、三芳町、山形県、藤枝市、盛岡市、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

(2) 開催内容

16:00	開会挨拶
16:05	ドイツ・グループ発表 2分間動画放映、3自治体・学生プレゼンテーション
16:20	カリコム・グループ発表 2分間動画放映、4自治体プレゼンテーション
16:35	ニュージーランド・グループ 2分間動画放映、3自治体・学生プレゼンテーション
16:50	Q&A
16:00	閉会挨拶

(3) 備考

発表者のドイツ、カリコム、ニュージーランドのフィールドグループが11自治体38名、聴講者が18自治体22名で開催予定であった。しかし新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、令和2年2月20日にホストタウンサミット2020の中止が決定したこと、サイドイベントの本成果報告会も中止することになった。

(4) 制作物

各フィールドグループによるA0ポスター展示



第3章 調査結果の総括

1. 成果分析の概要

(1) ドイツ・グループ

代表ホストタウン：豊橋市

構成ホストタウン：青梅市、延岡市、豊岡市(※)

※豊岡市は令和元年台風19号の接近により参加取消

ホストタウン内への波及効果	ボッチャや柔道体験などのスポーツ交流では言葉の壁もなく、相互理解を深めることができた。 横断幕作成では相互に応援するコンテンツを共同で制作することで東京2020大会へ機運の醸成が図れた。
事業実施により達成できた目標	横連携する自治体の学生を含めた交流だけでなく、ボッチャ体験では障がい者を含む人々とのスポーツ交流を通して共生社会への意識づけが図れた。
相手国への波及効果	同年代の日本の学生との柔道やボッチャ等のスポーツ交流や、太々楽神楽などの交流を通して、日本への興味・関心が高めることができた。
レガシー創造への寄与	豊橋市には東京2020大会以降のスポーツ分野での新たな交流について、ドイツ側から打診があった。 横連携の自治体は初めて交流事業を実施することにより、今後の事業継続への機会を創出できた。

(2) カリコム・グループ

代表ホストタウン：徳之島町

構成ホストタウン：与論町、和泊町、知名町

ホストタウン内への波及効果	カリコム地域を相手国とするホストタウン4自治体が、代表ホストタウンの徳之島町を中心に協力しあうことで、各町の中学生・小学生・こども園などの若年層同士の交流が図れた。
事業実施により達成できた目標	言葉の壁を越えたスポーツ交流やスティーロパンを利用した音楽交流により、離島の子どもたちに異なる文化を知り、グローバルな視野を持ってもらえるきっかけができた。
相手国への波及効果	ホストタウンの若い世代同士のスポーツや伝統文化体験、さらにはICT体験などを通して、距離的には遠い日本に関心を持ってもらうことができた。

レガシー創造への寄与	カリコム地域との地理的条件を克服するために、離島エリアの各ホストタウンが協力して交流プログラムを提案できたことは、今後の事業継続につながると考える。
------------	--

(3) ニュージーランド・グループ

代表ホストタウン：市原市

構成ホストタウン：厚木市、酒田市、倉敷市

ホストタウン内への波及効果	市原市はスポーツ施設や各スポーツ団体との連携を活かして交流につなげており、厚木市は過去の交流事業を活かして今回の交流につなげている。
事業実施により達成できた目標	25名の学生を横連携で招へいできたことにより、言葉の壁を越えたスポーツ交流やお互いの伝統文化に触れることができ、グローバル人材育成の一助になったと考えられる。
相手国への波及効果	同年代の学生が日本の伝統的な遊びや食文化を体験し、ニュージーランドのマオリ文化体験についても一緒に共有することで、相互理解を深めて二国間の関係をさらに強固にできた。
レガシー創造への寄与	既に2018年から横連携を行っていた自治体間で、お互いにホストタウンでの取組等の情報交換を進めてきたが、今回の交流プログラム実施により、大会後も継続させるきっかけができた。

2. 各調査プロジェクトの評価

(1) ホストタウン内への波及効果

招へい事業の代表ホストタウンは招へい者を受け入れることから、地元住民との交流や地元メディアの活用が図られた。また地元のメディアに対してリリース配信することにより、ホストタウン内のイベント開催結果が地元の地方新聞やテレビで取り上げられた。

一方で構成ホストタウンを加えたPR活動は、受託者のグループ会社である読売新聞を活用した露出が図られた。今回の招へい事業は読売新聞の朝刊全国版社会面に翌日掲載、さらに読売新聞オンラインに記事をアップすることにより、代表ホストタウン以外にも広く告知することができた。

継続的な交流促進には、地域住民のみならず広く国民への興味・関心の醸成が必要となることから、デイリー読者数1,291万人にリーチする読売新聞の波及効果は大きいと考える。

(2) 事業実施により達成できた目標

今回は中学生レベル同士の交流を主体としたことで、2020 年を超えたホストタウンと相手国・地域の絆を確固たるものにするための足がかりとなった。また幅広い世代を巻き込む施策として、徳之島町「徳之島文化祭」、豊橋市「ウェルネス豊橋 2019」などの住民参加イベントに招へい者との交流機会を設けた。

同一の相手国・地域をもつ複数のホストタウンが連携し、相手国・地域から招へいした子どもたちと、横連携したホストタウンの子どもたちとが交流を図ることに関して、日本の子どもたちの 99.5%が「今回の交流が楽しかった」とアンケートに回答し、「再参加希望」も 98.6%と高かった。

特にスポーツ・音楽・遊びを活用した交流プログラムは、言葉の壁を容易に乗り越えることができることが証明された。

また参加した学生が相手国・地域の習慣や文化に触れると同時に、地元の紹介を英語でプレゼンテーションする機会も多く見られたことから、グローバル人材の育成を図る機会を提供できた。

(3) 相手国への波及効果

各ホストタウンは柔道体験や伝統文化・食文化体験、さらに日本の遊び体験など、それぞれのエリアにちなんだプログラムを組み込んでいた。さらにオリパラに向けて両国の応援ツール（横断幕・袖風）を共同制作したところもある。

アンケートによると相手国の子どもたちの 100%が「今回の交流が楽しかった」と回答し、「再参加希望」も 97.4%と高かった。今回の交流プログラムを同年代の日本の学生と共有したことは、相手国・地域の子どもたちにとっても忘れられない経験となっていると考えられる。帰国後も彼らの家族や友人などを通して、日本について話題にしてもらうことが期待できる。

(4) 2020 年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与

ホストタウンの取組は日本の自治体と 2020 年東京大会に参加する国・地域の住民等がスポーツ、文化、経済などを通じて継続的に交流し、地域の活性化や観光振興につなげるものである。今回の調査事業では「子どもたち」「横連携」をキーワードに交流事業を企画した。そのため代表ホストタウンのノウハウだけでなく、構成ホストタウンからも協力を得ることができた。また受託者のような旅行会社のインバウンド専門部署が取り扱うことにより、子どもたちにポケットークを貸与して交流を促進したほか、ニュージーラ

ンド・グループにおいては市原市観光振興課と情報交換を図り「袖風を活用した応援ツールの作成」を提案することができた。

3. 自治体連携の横断的分析

(1) 事業実施経費

今回の「横連携」については、自治体向けアンケートに反映されており、単独自治体が事業を実施した場合と費用面の比較において、下記のような回答を得た。

「非常に安い」7名（30.4%）、

「安い」7名（30.4%）

「変わらない」9名（39.1%）

代表ホストタウンは招へいプログラムを実施する立場のため、「変わらない」と回答する自治体が多かったが、構成ホストタウンからは「非常に安い」「安い」と回答する自治体が多かった。

今後、交流事業を継続的に行うのであれば「横連携」は費用面において有利となることが期待できる。

(2) 事業実施体制・フロー

ホストタウンの取組を地域の活性化や観光振興、さらに今回のテーマの一つでもある若年層のグローバル人材の育成につなげるためには、個々のホストタウンだけで取組より、横連携のホストタウンで取組ほうがノウハウの共有が図れる。

この「横連携」については、自治体向けアンケートに反映されている。単独自治体が事業を実施した場合と手続面での業務量の比較において、下記のような回答を得た。

「非常に簡便」4名（18.2%）、

「簡便」7名（31.8%）

「変わらない」3名（13.6%）

「煩雑」8名（36.4%）

構成ホストタウンからは「非常に簡便」「簡便」と回答する自治体が多かったが、代表ホストタウンは招へいプログラムを実施する立場のため「煩雑」と回答する自治体が多かった。

今回のような横連携の交流プログラムには、ある程度のスキルをもった人材が運営面でも会計管理面でも必要とされる。現在、内閣官房で募集されている「ホストタウンアドバイザー」に課題解決を期待したい。

4. 他のホストタウンへの普及・展開に向けた提案

(1) 若年層の国際交流による地域の活性化

2020 年東京大会後のホストタウンの目指すものは、地域のグローバル化による活性化や観光振興等につなげていくことであると考えます。

今回の事業に参加した 11 自治体のアンケートにおいて、「ホストタウン交流の利点」は、「人材の育成・確保」が 44.4%、「地域住民のグローバル化」では 30.6%、「国際化による地域の活性化」では 22.2%という結果を得られたことから明らかである。

今回の事業では中学生レベルのスポーツ・文化交流をメインに据えることにより、比較的容易に言葉の壁を乗り越えることができた。また参加した中学生が異文化に触れることに加えて、自分たちの地元を英語で紹介する機会をもったことが、あらためて自分たちの自治体を見直すきっかけにもなっている。地方創生においても少子高齢化は大きな課題となっていることから、子どもたち同士の国際交流は、グローバル人材の育成に寄与すると同時に、インバウンドを含めた交流人口の拡大にも広がる可能性があると考えます。

(2) ホストタウン自治体の横連携による交流の深度化

同じ相手国・地域を対象とするホストタウン同士は、事前合宿の誘致などにおいてお互いが競合相手と捉える部分があった。しかしながら 2020 年東京大会後においてはホストタウン同士が連携した取組を行うことで、ホストタウン相手国に統一したメッセージを発信することができる。まさに今回の横連携モデルを積極的に利用することにより、それぞれの自治体の得意な分野を活かすことによる相乗効果を生むことができる。

今回の事業後の自治体向けアンケートでは、単独自治体が事業を実施した場合との費用面の比較において 60.8%から「安い」と回答があり、手続面での業務量の比較においては 50.0%が「簡便」との回答を得ている。

課題としては代表ホストタウンの手続面での業務量が煩雑となることがあげられるが、今後の事業実施にあたっては代表ホストタウンと構成ホストタウンの役割を持ち回りにすることで、業務量の平準化とコストの削減を図ることが可能になると考えられる。さらにお互いのノウハウを共有する機会にもなり、グループ全体で PDCA を回すことにより、グローバリズムに対応するスキルを磨くことにもつながると考えられる。

ただし構成ホストタウンから参加する場合には、構成ホストタウンの色が薄くなってしまいう懸念があるため、地元の伝統文化や食材などをアピールする機会を提供することが重要になると考えている。

(3) メディアを活用した PR 活動

今回の参加中学生から回収したアンケートによれば、ホストタウンの取組認知度は 57.5%にとどまっている。ホストタウンの機運を醸成するためには住民参加は欠かせないが、全住民が参加できるような交流プログラムは不可能であることからメディアの活用は極めて有効な手段であると考えている。

今回は読売新聞の本紙全国版と読売オンラインを利用したが、もっと積極的にメディアを活用した PR が必要であると考えている。読売新聞を引き合いにすれば、本紙（全国版、地方版）とオンラインに加えて、小学生向け読売 KODOMO 新聞、読売中高生新聞、The Japan News、The Japan News Online のラインアップがある。

地方創生を担う若年層の国際交流プログラムを、地域内の露出はもとより日本全国に共有することは、日本のグローバル人材の育成にも寄与するものである。また海外向けニュースメディアの活用によるホストタウン相手国への波及効果もあると考えている。

5. 好事例

(1) ドイツ・グループ



① 背景

- 愛知県豊橋市
ドイツとのテコンドーを通じたスポーツ交流や各種文化交流（クリスマスマーケット、オーケストラキャンプや中学生のパートナーシティヴォルフスブルグ市への派遣）等を実施している。
- 宮崎県延岡市
ドイツ柔道代表選手やジュニア世代の合宿を受け入れ、市内小中高校生とのスポーツ交流や各種文化交流等を実施している。
- 兵庫県豊岡市
ドイツボート連盟とパートナー契約を締結。事前合宿の受入れ準備を進めながら、スポーツ交流人口の拡大、ボート競技の普及（市民レガッタの開催・オリンピックとの交流等）、ドイツ文化に親しむ機会創出等に取り組む機運醸成を図っている。
- 東京都青梅市
姉妹都市であるドイツ・ポッパルト市とは、50年以上にわたる交流の歴史を積み重ねており、東京2020大会を契機として、オクトーバーフェストやクリスマスマーケットの開催などを通じたドイツファン作りに力を入れている。

② 招へい者

ドイツ連邦共和国ハンブルク社団法人エイムスビュッテル体操連盟から青少年役員ら他7名（引率者3名・学生5名）

③ 全体概要

10月11日～16日の5泊6日での交流を実施。ドイツの訪問者らが10月11日に予定通り豊橋市に到着し柔道交流などを行えた。しかし台風接近により、豊岡市が不参加となり、豊橋市の学生は12日に夕方、延岡市の職員・学生らは13日の午前中に合流し、13日・14日と豊橋市での交流事業を実施した。その後、東京に移動し、青梅市職員のアテンドで講道館を見学後、青梅市にて学生の交流会を行い16日に帰国。

④ スポーツ交流

各種スポーツ体験を通じ、同年代の学生や市民等幅広い世代と交流し、スポーツの関心を高めるだけでなく東京2020大会や今後のスポーツ交流の機運醸成を図ることができた。

- 柔道体験（10月11日(金)豊橋市立高師台中学校）是非、柔道体験を！とのことで市内でも有数の強豪校の練習から乱取りまで体験。
- ウェルネス2019（10月14日(月・祝)豊橋市総合体育館）パラリンピック種目でもある「ボッチャ」の体験や、日本独自の玉入れなどに参加。

⑤ 日本文化体験

浴衣体験や抹茶等の日本文化にふれてもらい、日本文化への興味・関心を高めることが出来た。

- 五平餅作り（10月13日(日)道の駅とよはし）自分でご飯を串につけた五平餅を炭火で焼き、オリジナル五平餅を堪能。
- 浴衣体験及び抹茶体験（10月14日(月・祝)豊橋市二川本陣資料館）日本の浴衣を着て東海道五十三次の宿場施設で抹茶体験。

⑥ SDGsの取組事例紹介

持続可能性に配慮した運営が求められるオリンピック・パラリンピックを見るだけでなく、支える人々の活動も知り、新たな楽しみ方を知ってもらえるよう豊橋市におけるSDGsの取組を学習。

- ボルネオ島保全プロジェクトの取組及び絶命危惧種に対する動物園の使命（10月13日(日)のんほいパーク・自然史博物館）
- バイオマス利活用センターの整備による地球温暖化防止や循環型社会の推進（10月14日(月・祝)豊橋市バイオマス利活用センター下水処理場）

⑦ 東京2020大会出場選手応援ツールの合同製作

ドイツ及び日本国旗に応援メッセージを記入し、オリジナル国旗を作成。各自治体開催の東京2020大会応援ツアーやパブリックビューイング会場等で国旗を掲げ、両国の選手の応援に活用していく予定。

⑧ 青梅市地元中学生による太々神楽披露

青梅市御岳山上の武蔵御嶽神社において奏上される太々神楽は、御岳山地域において神職の世襲によって二百数十年にわたり受け継がれている。今回、御岳山地域の中学生により、この太々神楽「浦安の舞」が、神楽殿の神聖な雰囲気の中で披露した。神楽の披露後は、それぞれ素の自分にもどっての交流会を開き、英語でのコミュニケーションやプレゼント交換を実施。緊張がなかなかほぐれないなか、自分たちの発意でカードゲームを始めたら一気に距離が縮まり、あっという間にお別れの時間となってしまった。

⑨ 東京 2020 大会メイン会場および柔道の聖地の視察

2020 年に開会する東京 2020 大会のメイン会場である新国立競技場の外観等を視察。外観はほぼ完成しており、子どもたちはテンションが上がっている様子だった。また、豊橋市での柔道での交流の流れを継いで、柔道の聖地である講道館を視察。残念ながら稽古の時間ではなかったが、武道場や資料館を見学し、聖地の雰囲気を堪能することができた。また、資料館には在籍するスポーツチームと縁のある資料が展示されているなど、意味深い視察となった。

⑩ 効果（参加者の声）

- 豊橋市・延岡市の参加者

同年代のドイツの学生達と英語で話す機会ではあったが、勉強不足と感じた。しかし、言葉は苦労したが、スポーツ交流や五平餅体験などの機会をジェスチャーや知っている単語を使い、コミュニケーションを図ることが出来た。外国人が沢山住んでいる地域なので、この経験を普段の生活にもいかしていきたい。（共生社会への意識づけが図られた）。

また、ドイツだけでなく自分たちの自治体に加え、他の自治体についても知る機会となり、日本についても改めて知ることが出来た。ドイツ語に触れて、英語だけでなくドイツ語も勉強したいという意欲がわいてきた。また、豊橋市の方言に触れたことで、自分たちの方言を見直すきっかけにもなった。

ほとんど交流することのない地域や他国の人たちとの交流は貴重な体験となった。今度は、ドイツに行って同じような体験をし、日本や延岡の良いところを伝えたい。

- 青梅市の参加者

ドイツの方々と初めて交流でき、言葉は難しかったけど、交流することができてとても楽しかった。みんなと打ち解けられて楽しく過

話すことができ、話ができたのですごくよかった。次はドイツに行ってみみんなと会いたい。

- ドイツの参加者

日本文化に触れ、柔道やボッチャ等のスポーツ交流は本当に学びが多く、日本への興味・関心が高まった。さらに、東京 2020 大会以降にスポーツ分野での新たな交流を豊橋市に打診したので、交流を継続していきたい。

- 両者

ボッチャや柔道体験では言葉の壁を感じることはなく両国の学生や関係者らと交流を深めることができ、スポーツの可能性を改めて感じた。横断幕作成では、ドイツ語や日本語でそれぞれ応援メッセージを何というか？などのやりとりもあり、一緒に大会への機運醸成を図ることも出来た。SDGs に関する取組については、持続可能性に配慮した運営が求められるオリンピック・パラリンピックを見るだけでなく、その陰で支える人々の活動を知ってもらうところまで理解をしてもらえたか若干の不安が残った。それでも、参加者の方々が満足し、笑顔で帰宅・帰国され、新たな交流の話も出てきているので、このつながりを両国の次なる世代間交流につなげ、2020 年を越えた末永い交流の礎としたい。

⑪ まとめ

文化やスポーツ体験・SDG s の取組等を通じ、日本とドイツとで違いを知り、取組を共有し、お互いの理解を深め、今回の事業目的を達成することが出来た。

連携事業実施にあたり、延岡市・豊岡市・青梅市の職員とつながり、ドイツに対する取組の理解を深めることができた。

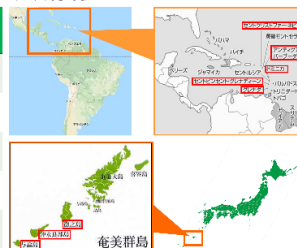
参加学生が国際交流の楽しさ・大切さを知り、今後も国際交流活動をしたいと意欲的になった。留学をしたい等も声もあり今年から高校受験の年を迎えていくので、将来を考える良い機会にもなった。

(2) カリコム・グループ

ホストタウン横連携（カリコムグループ）の取組について

①ホストタウン（カリコムグループ）登録自治体及び相手国情報 ※外務省HP参照

自治体名	相手国	国旗	人口	国土面積	ホストタウン登録日
徳之島町	セントビンセント及びグレナディーン諸島		10.9万人	389km ²	第11次登録 平成30年12月28日
天城町	セントクリストファー・ネイビス		5.4万人	262km ²	第15次登録 令和元年8月30日
和泊町	ドミニカ国		6.8万人	750km ²	第12次登録 平成31年2月28日
知名町	グレナダ国		10.5万人	345km ²	第12次登録 平成31年2月28日
与論町	アンティグア・バーブーダ		8.9万人	442km ²	第12次登録 平成31年2月28日



②交流内容（セントビンセント及びグレナディーン諸島、アンティグア・バーブーダ）



③今後の取り組み

地理的条件不利性による単独自治体での交流は困難が予想されるため、ホストタウン登録自治体間で連携を強化し、カリコム地域と交流を深める。また、離島ならではの創意工夫を凝らした特色ある交流を実施していく。

① 背景

鹿児島県の南南西約 500 km に位置する奄美群島のなかで南三島といわれる徳之島、沖永良部島、与論島に所在する 5 つの自治体がかリコム（カリブ共同体）に属する国とホストタウン登録を行っている。

② 概要

各町にて様々な交流事業を実施しているが、今回はセントビンセント及びグレナディーン諸島とアンティグア・バーブーダからそれぞれ学生 2 名、引率者 1 名の計 6 名を招へいし、各島々を訪問して交流を行った。11 月末の実施で、季節外れの台風の影響により悪天候に見舞われたが、関係者の協力や連携により、当初計画していた内容も予定通り実施することができた。

③ 徳之島

11 月 22 日から 24 日の 3 日間の行程で交流を実施した。ゲスト 6 名を徳之島空港で迎え入れ、交流事業がスタート。

今回の交流事業は子ども同士の交流を中心として、子どもたちが立案・企画した内容を優先し、運営や進行もすべて子どもたちが行った。

中学校訪問やジュニアリーダーとの交流では、プレゼンテーションによる互いの地域紹介やグループに分かれて意見交換など積極的にコミュニケーションをとる姿勢が見られた。

また、アンティグア・バーブーダのゲストによるスティールパン演奏では、初めて見る楽器と初めて聴く音色に感動していた。

ジュニアリーダーとの交流では、トリニダード・トバゴ出身の ALT（外国語指導助手）から事前に学んだ「チキンカレー」を制作し、ゲストに振舞い大変喜ばれた。

さらに、小学生のみで組織するエコツアーガイドによる集落歩きや史跡紹介では、事前に英語版のマップや紹介内容の作成、通訳案内士との打ち合わせなどを行った。本番では、緊張しながらも英語やジャスチャーを交え説明を行い、ゲストも説明をしっかりと理解し、興味を示している様子であった。

その他、鹿児島県指定無形民俗文化財「井之川夏目おどり」の体験や徳之島町文化祭鑑賞、プログラミングソフト「スクラッチ」体験・VR 映像視聴など様々な分野で交流を実施した。

④ 与論島

11 月 24 日にアンティグア・バーブーダの 3 名が、徳之島から与論島へフェリーで約 4 時間かけて移動し、27 日までの 4 日間交流を行った。

ゲストは、訪問した小中学校や子ども園、プレゼンテーション大会でスティールパンの演奏を行い、多くの町民にスティールパンの音色と感動を届けた。特に、子どもたちは初めて見るスティールパンに興味津々で、ゲストからの演奏指導を受けて実際に演奏を行い、貴重な体験をすることができた。

また、各小学校において事前にホストタウンの取り組みや相手国について学ぶワークショップを実施し、アンティグア・バーブーダの国旗に込められた意味を知った子どもたちがそれぞれ国旗を作成し、ゲストの歓迎の際に使用した。

ゲストの学生 2 名は、それぞれのホストファミリーでホームステイを行い、交流を深めるとともに日本の生活スタイルを体験する貴重な機会となった。

その他、観光地として有名な百合ヶ浜や琴平神社を視察、フットサルによるスポーツ交流を行った。

⑤ 沖永良部島

11 月 25 日にセントビンセント及びグレナディーン諸島の 3 名は、徳之島から沖永良部島へフェリーで約 2 時間かけて移動し、26 日までの 2 日間交流を行った。

和泊町では役場を表敬訪問後、中学校を訪問し、生徒による学校や地域紹介のプレゼンテーションと日本むかし話の英語での紹介、最後に「エ

ラブ百合の花」の演奏に合わせて一緒に踊り、親睦を深めた。また、和泊町有線テレビによる交流事業の撮影やゲストへのインタビュー等を行い、ホストタウン交流事業の周知活動を行った。

知名町では、沖永良部芭蕉布の継承と普及を目的に造られた「沖永良部芭蕉布工房」にて芭蕉布ミサンガの制作体験を行い、ゲストの3名は作り方の説明を受け、慣れた手つきで簡単に制作していた。また、工房のお母さんが今回の出会いにとっても感動して涙を流すという心温まる瞬間があった。その後、知名町スポーツ少年団による卓球体験を行い、ゲストの学生2名は初めての経験だったが団員の子どもたちの指導のおかげで試合形式が行えるほどに上達した。

⑥ まとめ

今回の交流事業を通して、各自治体の協力のもと各島を訪問する内容となり、ゲストには負担をかけてしまったが、今後の交流の形として実証できたと思う。

事業効果として費用や手続等の軽減については、2か国から招へいした為、そこまで感じなかったが、子どもたちにとっては一度の交流で相手国と同じ地域のゲストと交流ができ、相手国のみならずカリコム地域へ関心が広がり、国際交流への興味関心を高める機会となったと思う。また、各自治体との連携強化や協力体制の構築、今後の交流の方向性の共有をできたことが大きな収穫となった。

引き続き交流を行うには、現地からの招へいに係る多額な交通費や移動日数など課題、在日者数も少く、単独自治体と一国の交流は困難が予想される。

自治体間の連携強化によるカリコム地域との交流促進を図り、合同イベントの開催や招へい者の各自治体訪問など取り組みの共有を行い、各自治体の特色ある自然環境や伝統文化を活用した離島ならではの交流を継続していきたいと思う。

(3) ニュージーランド・グループ



① 概要説明

私たちニュージーランドホストタウングループは、東京オリンピック・パラリンピックという、海外からたくさんの人が日本にやってくる絶好のチャンスを活かして、ニュージーランドとの交流の輪を広げ、友好を深めるため取り組んでいる。

今回、住んでいる街を越え、日本各地のホストタウンの中学生が市原市に集まって、伝統的な日本の文化体験を通してニュージーランドの中学生と交流した。

日本からは、千葉県市原市、神奈川県厚木市、山形県酒田市、岡山県倉敷市から15名、ニュージーランドからは、オークランドユナイテッドFCアカデミー、ワイヌイオマタハイスクールの子どもたち25名が参加し、併せて40人の中学生が市原市に集まって2日間の交流プログラムを行った。

② 開会式

交流プログラム最初の開会式では、自分たちの住んでいる町をみんなに紹介した。

みんなが住んでいる町がどんなところか知ることができたことは、この後の交流を通じて仲良くなるきっかけになったと思う。

ニュージーランドの中学生は、ニュージーランド伝統の踊りであるハカや、歌を披露してくれた。初めてみるハカはとても迫力があつた。

③ 昔遊び体験

その後、会場を移動し、けん玉やこま、竹とんぼなどの日本の昔の遊びをみんなで一緒に体験した。ニュージーランドの子どもたちはみんな初

初めての体験だったが、竹馬やこまなど、私たち日本の子どもよりも上手くできるようになった子がいて驚いた。様々な遊びの中でも、長縄跳びが一番人気があり、ニュージーランドと日本の子どもが混じって遊んでいて、とても盛り上っていた。言葉は分からなかったが、お互いのタイミングを合わせてジャンプしていると気持ちが一つになったように感じた。

④ 餅つき体験

続いて、日本の正月ならではの行事である餅つきを体験した。

みんな慣れない手つきでお餅をついていた。ニュージーランドの子どもたちは、初めてなのでタイミングが分からず、お餅をこねる人の手をつきそうになるなど、危ない場面もあってびっくりしたが、ついたお餅をおしるこやきなこ餅にしてもらい、みんなでいただいた。つきたてのお餅はとても美味しかった。

⑤ 太巻き寿司体験

餅つきの後、市原市周辺の房総地域の伝統的な郷土料理の「太巻き寿司」を作った。

地元の方に教えてもらいながら、ごはんやいろいろな具材を海苔で巻いていった。上手くできているか心配だったが、完成したお寿司を包丁で切ったときに綺麗な模様ができていて嬉しかった。ニュージーランドの子どもたちも完成した太巻き寿司にとっても驚いていた様子だった。

⑥ マオリソング練習

ホテルに着いた後、今度は、私たちがニュージーランドの文化を教わった。

ワイヌイオマタハイスクールの先生が、ニュージーランドの先住民マオリの歌を教えてくれた。先生の教え方が上手だったのと、マオリの言葉の発音が日本語に近かったので、思ったよりも簡単に歌うことができた。

先生のギターに合わせて歌を歌いながら、ニュージーランドの人達が、自分たちの伝統の文化を大切にしていることを知ることができた。とても充実した体験の連続で1日目はあっという間に終わった。

⑦ 袖風作り体験

交流プログラムの2日目には、千葉県上総(かずさ)地方伝統の袖(そで)風(だこ)を作った。今年開催される東京オリンピック・パラリンピックに出場するお互いの国の選手を応援する気持ちを込めて、特別なデザインの風を作った。

地元の凧保存会の方に教えてもらいながら、ニュージーランドの子どもと私たち日本の生徒が組になり、凧に描かれたお互いの国の国旗に協力して色を塗っていった。また、東京オリンピック・パラリンピックでお互いの国の選手が活躍することを願って、みんなで思い思いのメッセージを書き込んだ。

⑧ 凧揚げ

凧を完成させた後は、実際に公園で空に凧を揚げることとなった。昼食の間に、凧保存会の皆さんが凧の紐を調整し、揚げられる状態にしてくれた。

天気はあまり良くなかったが、幸い雨は降らず、風も吹いていたので、ほとんどの凧が風によって空高く飛んでくれた。ニュージーランドのみんなも、日本の生徒と協力したり競い合ったりしながら、上手に揚げることができた。

曇り空だったが、日本とニュージーランドのお互いの国旗が描かれたたくさんの凧が空を飛んでいる光景はとても印象的であった。

⑨ 解散式

2日間にわたる交流プログラムもいよいよ終わりを迎え、最後の解散式が始まった。

お互いの代表がお別れの挨拶をした後、1日目の夜に練習したマオリの歌をみんなで歌った。一生懸命練習したおかげで、上手く歌うことができたと思う。

普段、話す言葉は違うけれども、同じ歌と一緒に歌っていると、お互い気持ちが通じ合っているように感じた。

⑩ 総括・感想

2日間の様々な文化体験を通じた交流を終えて、日本とニュージーランドは両国とも伝統的な文化をととても大切にしている国だと思った。

ニュージーランドは、先住民のマオリの言葉や、ハカなどをとても大事にしているし、日本も、その地域の伝統的な食べ物や、お正月ならではの文化が継承されている。

このような昔からの伝統、文化が、その国の個性であり、日本らしさ、ニュージーランドらしさというものなのではないか。

交流を通じてそれぞれの伝統や文化を尊重することが、言葉の壁を越えてお互いの理解を深めることにつながるのだと感じた。

これからもニュージーランドとの交流を大切にし、お互いの国や文化のことをもっとよく知りたいと思う。

最後に、このような貴重な体験の機会を与えてくれたホストタウン交流に感謝する。是非、オリンピック・パラリンピックの後も続いてほしいと思う。

【アンケート資料】

(1) 3グループ集計版

自治体アンケート総括

1	今回の交流では意義のある交流ができましたか。	①はい	②いいえ
		24	0
		100%	0%

2-1	今回は複数の自治体が同一の相手国を対象に交流事業を行いました。単独自治体で事業を実施した場合と、費用面の比較をしてください。	①非常に安い	②安い	③変わらない	④高い	⑤非常に高い
		7	7	9	0	0
		30.4%	30.4%	39.1%	0.0%	0.0%

2-2	今回は複数の自治体が同一の相手国を対象に交流事業を行いました。単独自治体で事業を実施した場合と、手続面での事務量の比較をしてください。	①非常に簡潔	②簡潔	③変わらない	④煩雑	⑤非常に煩雑
		4	7	3	8	0
		18.2%	31.8%	13.6%	36.4%	0.0%

3	ホストタウンとして、相手国との交流で重視しているのは、どのような交流ですか。	①文化交流	②経済交流	③スポーツ交流	④食の交流	⑤人材育成
		15	0	12	7	10
		34.1%	0.0%	27.3%	15.9%	22.7%

4	交流の利点は、どのようなことと考えますか。	①国際化による地域の活性化	②相互交流による人材の育成・確保	③地域住民のグローバル化	④その他
		8	16	11	1
		22.2%	44.4%	30.6%	2.8%

5	今後、交流を継続するうえで、どのような課題がありますか。	①経費の負担	②食への対応	③言語への対応	④文化の違い	⑤地域の理解度	⑥日本までの距離	⑦その他
		16	9	11	4	9	5	2
		28.6%	16.1%	19.6%	7.1%	16.1%	8.9%	3.6%

国内学生アンケート総括

1	ホストタウンの取組をご存じでしたか。	①はい	②いいえ
		123	91
		57.5%	42.5%

2	今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったかどうか。	①はい	②いいえ
		212	1
		99.5%	0.5%

3	今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか。	①ぜひ参加したい	②機会があれば参加したい	③あまり参加したくない	④参加したくない
		108	104	1	2
		50.2%	48.4%	0.5%	0.9%

4	ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか。	①競技会場	②パブリックビューイング	③自宅のテレビ	④website
		34	14	157	8
		16.0%	6.6%	73.7%	3.8%

招へい国アンケート総括

1	東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取組をご存じでしたか。	①はい	②いいえ
		35	4
		89.7%	10.3%

2	今回、ホストタウンの方と交流して、楽しかったですか。	①はい	②いいえ
		39	0
		100.0%	0.0%

3	今回のホストタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか。	①ぜひ参加したい	②機会があれば参加したい	③あまり参加したくない	④参加したくない
		15	23	1	0
		38.5%	59.0%	2.6%	0.0%

4	東京2020オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか。	①競技会場	②自国のパブリックビューイング	③自宅のテレビ	④website	⑤ホストタウン	⑥日本のパブリックビューイング
		15	4	15	5	7	2
		31.3%	8.3%	31.3%	10.4%	14.6%	4.2%

(2) ドイツ・グループ

自治体名: 豊橋市 4 名、青梅市 4 名、延岡市 2 名

1. 今回の交流では意義のある交流ができましたか。

- ① はい(10 名)
- ② いいえ(0 名)

2. 今回は複数の自治体が同一の相手国を対象に交流事業を行いました。単独自治体で事業を実施した場合と、費用面・手続面での事務量の比較をしてください。

■ 費用面

- ① 非常に安い(1 名)
- ② 安い(4 名)
 - ・ 単独自治体でこれだけの期間にわたり事業を実施する場合、金銭面のみならず人的サポート体制を考慮すると、今回のように複数自治体での事業実施が望ましいと思われる。
- ③ 変わらない(4 名)
 - ・ 青梅市は遠隔地での実施となったため、本設問の趣旨には合わないかもしれません
- ④ 高い(0 名)
- ⑤ 非常に高い(0 名)

■ 手続面

- ① 非常に簡潔(0 名)
- ② 簡潔(3 名)
 - ・ 当然のことながら参加自治体の全てが共通のルールの下で事業の企画運営をしているため、他の例に従うことができる点や、今回の場合で言うと相手国が入国されて以降様々な情報共有が図られているため、準備段階で企画の修正ができるなど、手続き面で簡潔となった印象です。
 - ・ 交流事業実施自治体においては参加自治体の調整が加わるなど事務が煩雑であり事務量も多かろうと思うが、参加する自治体にとっては相手国と調整する必要がないため簡潔であった。
- ③ 変わらない (2 名)
- ④ 煩雑(4 名)
- ⑤ 非常に煩雑(0 名)

3. ホストタウンとして、相手国との交流で重視しているのは、どのような交流ですか。

- ① 文化交流(7 名)
 - ・ 東京都でありながら自然豊かであるという青梅市の特徴を知ってもらいたいから

- ・ 息の長い取り組みへと結びつけていくためには、相手国への理解や親近感が重要だと認識しており、相手国の文化を知ることは市民の興味を高める効果が高いと実感してるため。
- ・ 市民がホストタウン相手国のことを理解するためには、文化交流がとても大事だと思います。その中の一つに食の文化があります。またスポーツ交流を通じて、市民は相手国の言葉がわからなくても相手国と楽しく交流できると思います。

② 経済交流(0 名)

③ スポーツ交流(6 名)

- ・ 東京オリンピック・パラリンピック時期の交流であるため

④ 食の交流(5 名)

⑤ 人材育成(2 名)

- ・ 青梅市においては東京 2020 大会以前から、ドイツの自治体と姉妹提携を結んでおり、青少年の派遣および受け入れ事業などの人的交流を続けてきており、今後の事業展開も考えると人材の育成が重要である。
- ・ スポーツや文化の交流をすることは手段であって目的は市民(特に小中高生)の国際意識や海外への興味・関心の醸成である。

4. 交流の利点は、どのようなことと考えますか。

① 国際化による地域の活性化(5 名)

② 相互交流による人材の育成・確保(6 名)

③ 地域住民のグローバル化(4 名)

④ その他(1 名)

- ・ グローバル化とともに国の文化の保全

5. 今後、交流を継続するうえで、どのような課題がありますか。

① 経費の負担(6 名)

② 食への対応(4 名)

③ 言語への対応(0 名)

④ 文化の違いに対する理解不足(2 名)

⑤ 地域の理解度(5 名)

⑥ 日本までの距離(2 名)

⑦ その他(1 名)

- ・ 相手国から招いての事業実施はコストが高く、在日ドイツ人は国内に約 3,000 人しか在住していないため参加を募っても参加者数の確保に苦慮している。

6. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想などを自由にご記入下さい。

- ・ 貴重な体験でした。これからを担う世代同士の異文化理解促進というのはとても有意義と考えますので、今後もホストタウン相手国とは交流を続けていきたいです。

- ・ 日本の自治体との横連携がここまで図れる事業はなかなかないため、とても貴重な事業でした。ドイツと新たな交流を築けるかもしれないという結果もうまれたため実り多く有意義でした。ドイツ・日本の自治体と連携して、また別の交流をしたいと思いました。
- ・ 食アレルギーの点、ドイツと日本の同世代を比べる貴重な経験にもなり楽しめた。今後も交流をしていきたいです。
- ・ 国際的な交流をはじめ、他の日本の自治体との関係を深めることができ、将来の交流の扉を開きました。
- ・ ベジタリアンの方への食の対応について情報共有が必要であると感じた。
- ・ 基礎自治体だけではできないことも、国や民間企業の力をお借りすることで事業の充実が図れるものと実感しました。東京 2020 大会以降にレガシーとして残る交流となるよう基礎自治体として創意工夫をしていくのと合わせて、未来へとつなげていく意思のある自治体に対する継続的なサポートを期待します。
- ・ 今回のように若年層(中学生)を対象とした受入の場合、食文化のみならず、本人たちの嗜好(好き嫌い)による食事の対応が非常に難しいと感じた。
- ・ 今回、来日された団体は短期間で複数の都市を楽しむことができて良かったのではないかと。限られた滞在の中で、何に時間を割くかの取捨選択が重要と感じる。臨機応変に予定変更できる余白も必要。参加者・受入者の双方にあらかじめ相手の国・地域・文化への関心を高めておけば活発な交流につながると感じた。
- ・ 今回の事業はその内容としては意義のある素晴らしい企画だと思う。参加中学生(両国)の事業の主導や内容の理解度を含め、事前に十分な準備期間をとって臨めばさらに大きな成果を生むことができたと思う。ホストタウン交流の成果を2020 東京大会以降につなげていくために、例えば相手国の都市との友好都市交流など時間と経費が必要になる。2020 東京大会以降もホストタウンを契機とした交流を継続・発展させようとする自治体に対しては交付税措置の継続など一定期間の財政支援を望みます。
- ・ 今回の交流で中学生が「楽しく参加でき、ドイツのことをもっと知りたい」と言っていました。台風の影響で延岡市の中学生が遅れて参加することになり、自己紹介のタイミングが難しく、お互いの参加自治体の紹介もできませんでした。その結果、ドイツ人参加者は豊橋市中学生だけが参加しているという誤解もあったそうです。例えば自治体名の書いてあるシャツ(等)があれば良かったと思います。観光地では交流というより観光地案内を聞くだけという印象でした。可能であれば地元中学生がガイドと一緒に観光地説明をするなど工夫があれば良かったと思います。スポーツ交流ではドイツ人参加者と日本人参加者が同じチームと一緒に体験ができて良かったです。

自治体名:豊橋市中学生(4名)

1. ホストタウンの取組をご存じでしたか？
 - ① はい(2名)
 - ② いいえ(2名)
2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。
 - ① はい(4名)
 - ・ 英語で知らない子と交流ができて、同じ市の中学生と協力しながらやることができ、すごく楽しかったです。たくさん友達ができたところもです。
 - ・ お互いの国や地域について知ることができたし、UNO とかでコミュニケーションをしっかりと取れたと思うからです。
 - ・ 異なった文化に触れ、言葉の違いの苦労はあったものの楽しかった。
 - ・ 言葉が通じないこともあったけど相手方が優しくてとても楽しい交流ができた。
 - ② いいえ(0名)
3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？
 - ① ぜひ参加したい(4名)
 - ・ 他国の子や同じ市や違う県の子たちと、たくさん仲良くなれたし、たくさん貴重な体験ができて良かったです。
 - ・ 言葉の壁や地域ごとの方言はあるけど、何かで通じ合えるものがあると思うからです。
 - ・ とても刺激的な体験をすることができたから
 - ・ 他校の人や他国の人と交流を深めることで、友情も深まるし自分の成長にもなるから
 - ② 機会があれば参加したい(0名)
 - ③ あまり参加したくない(0名)
 - ④ 参加したくない(0名)
4. ホストタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
 - ① 競技会場(0名)
 - ② パブリックビューイング(1名)
 - ③ 自宅のテレビ(3名)
 - ④ Website(1名)
5. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
 - ・ 初めて他校・他県・他国の子と交流する体験をして、最初は不安でたまらなかったけど、実際に体験してみて 3 日間がすごく短く感じてとても楽しかったです。他県や他国の子達と仲良くなれたのは自分的にすごく嬉しくて応募して良かったなと思いました。また似たような機会があれば参加したいと思いました。
 - ・ 同じ学校、国、地域でない中でも、今まで学習してきた英語を試す機会であり、自分でもまだまだというところや、会話というところをこれからもっと学習を深めていったり、またこのような企画に参加したりして、たくさんの言葉・言語を増やして、どんな質問され

でも正確な答えができるよう頑張りたいです。三日間お世話になりました。ありがとうございました。

- ・ 今後も地域の交流を続けて欲しい。
- ・ 今回の交流では他校の人や他国の人と言葉はつうじない面もあったけど仲良くすることができ、とても良い体験ができました。また他の形で機会があったらやってみたいと思います。またこうした交流によって他国の方々との交流の楽しさを知ることができました。ドイツの方の中にはベジタリアンという人たちがいたりして、あまり日本では聞かないので、そういう人たちがいるんだなという発券もできました。また交流をとおして SDGs のことも考えたりして、これからの世界になにが大切か、何をして、何に気を付けて生きていけばよいか少しわかった気がします。交流を楽しみ学ぶこと、このコツも得られるすごく良い機会だったと思うので、色々な人に実感してもらいたいのので、またこういう機会が他の人にもできて欲しいと思います。

自治体名：青梅市中学生(5 名)

1. ホスタウンの取組をご存じでしたか？
 - ① はい(1 名)
 - ② いいえ(4 名)
2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。
 - ① はい(5 名)
 - ・ みんなと打ち解けられて楽しく UNO をすることができたし、話をできたのですごく良かったです。また遊びたい！
 - ・ 知らない人たちだったけど徐々に仲良くなっていき楽しかった。
 - ・ 交流で話したり遊べてとても楽しく過ごせたから
 - ・ 交流などがたくさんできて、とても楽しめたから
 - ・ ドイツの方々と初めて交流して言葉はわからなかったけど交流がとても楽しかった。
 - ② いいえ(0 名)
3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？
 - ① ぜひ参加したい(2 名)
 - ・ 楽しく話をしたりできた。次はドイツに行ってまたみんなと会いたい
 - ・ 他の国にも行ってみたいと思った
 - ② 機会があれば参加したい(3 名)
 - ・ もっと違う国の人と交流したいから
 - ・ とても楽しく交流できたから
 - ・ 楽しかったから
 - ③ あまり参加したくない(0 名)
 - ④ 参加したくない(0 名)

4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(3 名)
 - ② パブリックビューイング(0 名)
 - ③ 自宅のテレビ(3 名)
 - ④ Website(0 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ ドイツに行ってまたみんなと会いたいと思った。ぜひ次の機会があったらまた集まりたいと思いました。
 - ・ 今回短い時間だったけれども、みんなと仲良くなれて良かった。もっと違う国の人と交流したいと思った。とても楽しかった。
 - ・ 違う国の人達とたくさん話をして楽しめました。
 - ・ 他国の人と交流できて貴重な体験でとても楽しめた！
 - ・ 初めて国際交流でとても良い経験になりました。

自治体名:延岡市中学生(5 名)

1. ホスタウンの取組をご存じでしたか？
- ① はい(3 名)
 - ② いいえ(2 名)
2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。
- ① はい(5 名)
 - ・ ドイツ語や英語を使ってたくさんお話しできて面白かったし、いろんなドイツ語を知れたから
 - ・ 方言やドイツ語に触れて食べ物だったり一緒に行動するのが、すごく楽しかった。
 - ・ ほとんど交流することのない地域・他国の人たちと交流でき貴重な体験ができたから
 - ・ こんな機会めったにないし、ドイツの人たちと話したり交流できたから
 - ・ 普段することがない体験をできたから
 - ② いいえ(0 名)
3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？
- ① ぜひ参加したい(4 名)
 - ・ ドイツで面白そうだなあと思ったこともあって他の国でも知りたいと思ったから
 - ・ みんなやさしく、それぞれの文化・方言をもっともっと知りたいし、3 日間とてもいい思い出になったから
 - ・ 将来的にとっても役立つ経験ができると思うから
 - ・ とても楽しかったし、またドイツや他の国の人と交流したいから
 - ② 機会があれば参加したい(1 名)
 - ・ 今回参加してみても面白いと思ったから

- ③ あまり参加したくない(0 名)
 - ④ 参加したくない(0 名)
4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(1 名)
 - ② パブリックビューイング(0 名)
 - ③ 自宅のテレビ(2 名)
 - ④ Website(0 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ 日本にきてもらうんじゃなくて海外に行ってみたい。オリンピック・パラリンピックのドイツの選手も日本の選手も見て応援したいと思った。ドイツ語も知れたし英語力も上がって面白かった。もっと一緒に教えてもらいながらできる交流だったらいいと思う。
 - ・ 最初の方は恥ずかしくて話せなかったけど、だんだんと話せるようになり、たくさん写真を撮ったり、遊んだりしました。一緒にした五平餅作り、玉入れ、ポッチャは豊橋、延岡、ドイツと 3 つを混ぜて交流する遊びはすごく楽しいのもっと増やすといいと思います。今度は私たちがドイツに行って日本・延岡の良いところをたくさん伝えたいです。
 - ・ 一緒に作業などをできる時間を増やしたほうが良いと思います。とてもいい経験になったし、とても楽しかったです。次はドイツに行けたらうれしいです。
 - ・ 朝は早かったけど色んな学校の子や市の子、ドイツの人たちと交流できてとても楽しかった。今回は台風で予定通りにはいかなかったけど、もしまたこのような事業があったら参加したい。逆に日本からドイツに行って交流するというのもやってみたい。
 - ・ 色々なことができて良かったです。今回は一日しか交流できなかったのもっとドイツとの交流ができれば良いと思います。

招へい国:ドイツ(6 名)

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホスタウンの取組をご存じでしたか？
- ① はい(6 名)
 - ② いいえ(0 名)
2. 今回、ホスタウンの方と交流して、楽しかったですか。
- ① はい(6 名)
 - ・ 経験を集めたことと新しい文化を知ったこと。
 - ・ みんなとても親切で優しく、温かかった。とても楽しむことができた。
 - ・ 人々は礼儀正しく、親切で、温かく迎え入れてくれた。
 - ・ 親切、食事、アクティビティ、学生との交流。
 - ・ 私たちはいつも温かく受け入れられ、もてなされたので、人々との交流はとても良かった。
 - ・ 人々はとても礼儀正しくて親切だった！

- ② いいえ(0 名)
3. 今回のホストタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか？
- ① ぜひ参加したい(4 名)
- ・楽しかったし、有益で、興味深かった。
 - ・とても楽しかったから。
 - ・とても興味深く、有益だった。
 - ・興味深い文化をたくさん知ることができた。とはいえ、私たちは 6 日間しかいなかったのだから、もっと多くの見るべきものがあるのは明らかだ。
- ② 機会があれば参加したい(2 名)
- ・そこで新しいことができるのであれば、イエスだが、そこで同じようなことをするのであれば、ノー。
 - ・とても素敵だったし、可能ならば、もう一度やりたいと思っている。
- ③ あまり参加したくない(0 名)
- ④ 参加したくない(0 名)
4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか？(複数回答)
- ① 競技会場(0 名)
- ② 自国のパブリックビューイング(2 名)
- ③ 自宅のテレビ(5 名)
- ④ website(5 名)
- ⑤ ホストタウン(0 名)
- ⑥ 日本のパブリックビューイング(0 名)
5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・本当にありがとうございました！・
 - ・答礼訪問があれば、とても良い
 - ・交流は楽しかったし、とても興味深かった。旅行からとても多くのものを持ち帰ることができた。
 - ・交流はとても興味深いと思ったが、あまり面白くない小旅行はできることなら避けたかった。とはいえ、良い小旅行の方が多かったし、大部分は面白かった。
 - ・この旅行は興味深く、楽しく、有益だった。ただ、この国をもっといろいろ見るために、この国で過ごす時間がもう少しあればと思った。

(3) カリコム・グループ

自治体名：徳之島町 5 名、与論町 1 名、和泊町 1 名、知名町 1 名

1. 今回の交流では意義のある交流ができましたか。

- ① はい(8 名)
- ② いいえ(0 名)

2. 今回は複数の自治体が同一の相手国を対象に交流事業を行いました。単独自治体で事業を実施した場合と、費用面・手続面での事務量の比較をしてください。

■ 費用面

- ① 非常に安い(2 名)
 - ・ 今回の交流事業においては、特に費用負担はなし。
- ② 安い(2 名)
- ③ 変わらない(4 名)
 - ・ 交流事業の事務等について携わっていないため不明。
- ④ 高い(0 名)
- ⑤ 非常に高い(0 名)

■ 手続面

- ① 非常に簡潔(2 名)
 - ・ 受入れ元である徳之島町さんのご尽力もあり、手続き面で苦慮したことは無かった。
 - ・ 受託者さんによる通訳の手配やビザの手配等をしっかりやっていただけて、自治体としての負担は少ない印象でした。
- ② 簡潔(2 名)
 - ・ 今回の場合は与論町ではなく、主軸であった徳之島町が取りまとめて手続きをしてくれたことと、読売旅行さんが手早くスムーズな業務をしてくれたおかげで、本町の業務的負担はかなり軽減されたと思う。
- ③ 変わらない (1 名)
 - ・ 交流事業の事務等について携わっていないため分からないが、民間団体との手続きが必要な場合には、手続きの手順等を事前に知らせると円滑に進むのではと思う。
- ④ 煩雑(2 名)
- ⑤ 非常に煩雑(0 名)

3. ホストタウンとして、相手国との交流で重視しているのは、どのような交流ですか。

- ① 文化交流(7 名)
 - ・ 異文化交流は相手国を知るうえで最も有効な手段であり、また自国の文化を紹介することは自国のことを良く知る必要があり、双方に恩恵をもたらす。

- ・ スポーツや食については多様で内容が限られたが、文化面では歴史や芸能・音楽を通してコミュニケーションをとることができたと思う。
- ・ 特に子供たちにとって異なる文化を知ることで、グローバルな視野を持って外界に興味をもって欲しい。

② 経済交流(0 名)

③ スポーツ交流(3 名)

- ・ 互いの国や地域にとって相互理解を深めるにはその国の文化を知り、言葉の壁を越えて交流することができるスポーツ交流であれば、より相互理解を深めながら、オリンピック・パラリンピックの気運を高められると思う。
- ・ 和泊町ではスポーツを通じて子供に夢を与えるきっかけにしたいと思うとともに、環境への取り組みの情報交換交流を通して SDGsにつながるアクションを互いの国で起こすきっかけにしていきたい。

④ 食の交流(2 名)

- ・ 人の三大欲求のひとつであり、取り組みがしやすい。

⑤ 人材育成(2 名)

- ・ 町の将来グローバル人材を育成することを目指しているため。
- ・ まず一人でも多くの町民が相手国のことを知ることで、子供たち同士の交流機会の創出や通訳等を生業とする方の育成等、今後も相手国との交流を継続できるように。

4. 交流の利点は、どのようなことと考えますか。

- ① 国際化による地域の活性化(2 名)
- ② 相互交流による人材の育成・確保(6 名)
- ③ 地域住民のグローバル化(3 名)
- ④ その他(0 名)

5. 今後、交流を継続するうえで、どのような課題がありますか。

- ① 経費の負担(5 名)
- ② 食への対応(3 名)
- ③ 言語への対応(7 名)
- ④ 文化の違いに対する理解不足(2 名)
- ⑤ 地域の理解度(4 名)
- ⑥ 日本までの距離(3 名)
- ⑦ その他(1 名)
 - ・ よく近くて遠い国、韓国と評されるが、本当に遠い。実際、宇宙より遠い。
 - ・ 継続的な交流をするためには、テレビ電話などで交流できる方が望ましいように思う。

6. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想などを自由にご記入下さい。

- ・ 交流なので一方通行はいかなるものかと思うが、日本から相手国への渡航についても、期間・助成額の限度を決めて国庫負担があればと思う。（まあ無理か・・・。）
- ・ 今回はオリパラ事務局の支援を受けながら 2 度目のホストタウン交流事業を実施することができました。世界遺産登録がなされた後には外国人観光客も増加が予想されます。その対応に向けて良い体験ができたと思いました。
- ・ 非常に悪天候な日があったため、スケジュール変更や人の連携や調整がスムーズに出来なかったところが反省点だと感じている。天気の良い日に見る徳之島は、また違った印象を与えたと思う。
- ・ 言葉の壁や食文化の違いが課題だと思う。子供同士の交流事業はとても良かった。
- ・ 今回の交流において子供たちが自らスマートフォン等を使い、積極的に相手国の子供たちとコミュニケーションを取ろうとする姿が印象的でした。また各地域に住む地域通訳案内士にとっても普段は聞くことができないアクセントや政策・文化の紹介に苦戦しながらも良い経験になったのではと思う。同行した通訳案内士からは行政担当者の柔軟な対応が素晴らしく事業を円滑に遂行できたという声を聞くことができた。
- ・ 今回の交流は大変有意義な交流であった。というのも今回選出されて来日したゲストがとても素晴らしかったためだと思います。与論町ではホストタウン事業とアンティグア・バーブーダの認知度も良い意味で上がったと思う。しかし同時に交流したセントビンセント・グレナディーンズのゲスト 3 名の印象は悪く、ホストタウン事業のイメージも下がってしまうのではないかと感じた。本町に来なくて良かったというのが正直な印象です。ゲストの選出はとても大切だと実感しました。
- ・ 子ども同士の交流事業はとても良いと思う。何よりそもそも相手国のことを知らない子供たちが直接交流を行うことにより、お互いの距離を縮めていることを強く感じた。やはり同年代の交流はとても良いものだと感じた。オリパラの選手をはじめ、相手国の様々な方々と広く交流を行えるよう努力したい。ただ言葉の壁はもちろんだが、相手国とのやり取りがスムーズにいかなのは気になる点である。
- ・ 子どもたち同士の交流になったことはとてもよかったです。離島自治体としては、島外の方々と交流すること自体貴重ですが、海外の方、それも同世代の方と交流できたことはとても貴重な機会になりました。受け入れをした中学生たちが本町の説明をする時間がありましたが、海外の方々に、地元のことを伝えるということを通じて意識し、グローバルな意識を持つきっかけになったと思います。

自治体名:徳之島町 井之川中学校(21 名)

1. ホストタウンの取組をご存じでしたか？

① はい(6 名)

② いいえ(15 名)

2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。

① はい(21 名)

- ・ 初めてみる楽器を演奏してもらい、相手の国についても知ることができたから(3 名)
- ・ 英語で会話することができたから(2 名)
- ・ スティールパンの演奏が聞けたり、楽しく踊ったりしたから(2 名)
- ・ 自分が知らない楽器の演奏を聞くことができたから(2 名)
- ・ 相手国のことについていろいろなことを知ることができたから(2 名)
- ・ わずかな英語力とジェスチャーだけで交流できたことが、自分の自信につながったから
- ・ みんなしっかり私たちと一緒に楽しくできたから
- ・ しゃべったり、相手国の文化などを知ることができたから
- ・ いろんな人たちと話ができたから
- ・ 今回の相手国・地域の方と初めて交流したのでとても良い経験になりました
- ・ 習った英語を活用して、ウギ節などを踊って笑って心に残ったからです
- ・ グランドゴルフで地域の方がどんどん質問をしてきてうれしかった
- ・ このような機会はあまりないのでとても心に残ったから
- ・ 自分はあまり英語がしゃべれなかったが一生懸命聞こうとしてくれて、言葉が伝わらなくても楽しめたから
- ・ スティールパンの音がすごかった

② いいえ(0 名)

3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(6 名)

- ・ すごく楽しかったから(2 名)
- ・ 違う国の人と交流できるのはとても貴重なことだから(2 名)
- ・ 今回は少ない時間だったので、もっといろいろな国のことを知ってみたいです
- ・ とても良い経験となり、たくさん交流して仲を深めたいから

② 機会があれば参加したい(15 名)

- ・ 今回の交流が楽しかったから(8 名)
- ・ 外国の人と交流する機会はあまりないから(2 名)
- ・ いろんな人と触れ合え、いろんなコミュニケーションができると思うし、徳之島の良いところを伝えていきたいから
- ・ ふれあう機会があまりないから

- ・ また機会があったら今後もイベントに参加したい
 - ・ もっと地域の人と交流して仲を深めたいから
 - ・ 島内であればまた楽しい時間を外国人の方と過ごせるから
- ③ あまり参加したくない(0 名)
- ④ 参加したくない(0 名)
4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(0 名)
- ② パブリックビューイング(0 名)
- ③ 自宅のテレビ(20 名)
- ④ Website(0 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ 初めてホスタウン交流をしました。はじめは緊張しましたが交流をするうちに慣れてきました。とても心に残った交流でした。またこのような機会があればぜひ参加したいです。
 - ・ ダンスがすごく楽しくて写真もいっぱい撮れてすごく楽しかったです。
 - ・ とても楽しくふれあうことができ、英語は難しかったけど相手のことを知ることができたので良かったです。
 - ・ 英語で話すときは、なかなか理解してもらえず難しかったが、がんばって伝えることができて良かったです。
 - ・ はじめて日本語が通じない外国の方と交流しました。とても楽しくまた参加したいです。
 - ・ すごく楽しく話をしたり一緒にゲームをしたりして、めったにできない経験をさせてもらいました。少しずつ話の内容ができるようになり英語にも自信がつくようになりました。すごくいい思い出です。
 - ・ また徳之島にいらして欲しいと思います。とてもいい経験ができました。楽しかったです。
 - ・ とても楽しかったです。いろんな国の方々と交流ができて良かったです。機会があれば参加したいです。
 - ・ 今回、自分の知らなかった国の人たちとの触れ合いで、いろんなことを知ることができました。また参加したいです。
 - ・ 最初は英語で話していて伝わるかどうか不安だったけど、楽しく交流できて良かった。また機会があれば参加したい。
 - ・ 良い経験になったので良かったです。みなさんやさしい方だったのでうれしかったです。
 - ・ とても良い時間を過ごせてとても楽しい交流会になりました。また来年もこういう機会を作って欲しいです。オリンピック・パラリンピック最後まであきらめずにがんばってくださいね。徳之島から応援しています。
 - ・ これからもこのように地域の方が他国の人たちとの交流をして、もっとその国のこととか知らない遊びなどをして、もっともって仲を深めて共に語り合えるようにしたいです。

- ・ 自国の文化と相手国の文化を交流できたところがとても良かったです。
- ・ 相手国の文化や特色を知ることができた。めったにない経験をする事ができた。
- ・ 言葉は通じなくとも一生懸命、自分の英語を聞こうとしているところだけでもうれしかったです。
- ・ 外国の方とふれあうことができて楽しかった。スティールパンの演奏がすごかった。音が響いて聞いていて楽しい気持ちになった。
- ・ 違う国の人でもコミュニケーションがとれていたのすごいなと思った。スティールパンなど違う国の楽器を見たり聞いたりすることができたので良かった。
- ・ スティールパンという楽器を演奏してくれて、とてもきれいな音色で感動した。言葉がわからなくても楽しめたので良かった。
- ・ スティールパンの音もすごかったし、相手の国のダンスもおもしろかった。みんな身長が高くてびっくりした。足も大きくてびっくりした。
- ・ スティールパンを聞くことができて良かった。質問が英語でできて良かった。一緒に踊ったりして楽しかった。

自治体名:与論町 与論中学校(130 名)

1. ホスタウンの取組をご存じでしたか？

- ① はい(87 名)
- ② いいえ(43 名)

2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。

- ① はい(130 名)
 - ・ 音楽を聞いて、みんなで輪になって踊って楽しかったから(33 名)
 - ・ 相手国の音楽と一緒に楽しめたから(18 名)
 - ・ 外国の文化に触れることができたから(14 名)
 - ・ スティールパンという楽器の音がとてもきれいだったから(8 名)
 - ・ スティールパン演奏が面白かったから(7 名)
 - ・ 楽しそうに演奏していて、みんな楽しそうでノリノリでした(6 名)
 - ・ 相手国の楽器で相手国の音楽を楽しめたこと(3 名)
 - ・ 知っている曲があって盛り上がったから(3 名)
 - ・ みんな笑顔で仲を深められたから(3 名)
 - ・ とてもやさしく話しやすかったから(3 名)
 - ・ いろんな音楽を聞いてアンティグアのことを知ったから(2 名)
 - ・ 日本にはない愉快的な人たちで面白かった(2 名)
 - ・ 普段できないことが経験できたから(2 名)
 - ・ 相手側から積極的に楽しむように取り組んでくれたから(2 名)
 - ・ 与論にしながら海外の人と触れ合うことができた(2 名)

- ・ 言葉も文化も違う人と触れ合えたこと(2 名)
- ・ 3 人の演奏が迫力あるすごい演奏をしていたから
- ・ 言葉は通じなくても音楽でみんなと仲良くなれたこと
- ・ 演奏もみんなで繋げた列車も質問応答も全部楽しかったから
- ・ アンティグアの人たちがみんな笑顔で接してくれたから
- ・ 相手国のスポーツや季節を知ることができたから
- ・ 日本語であいさつをしてくれた
- ・ いろいろな文化の違いに気づけたこと

② いいえ(0 名)

3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(66 名)

- ・ 交流が楽しかったから(25 名)
- ・ もっと外国のことを知りたいから(7 名)
- ・ 知らない外国の人と交流をして楽しかったから(4 名)
- ・ いろんな国の人と交流して興味を深めていきたい(3 名)
- ・ 楽器をとおした交流が楽しかった(3 名)
- ・ いろんな国ことを知ることができるから(2 名)
- ・ 外国の人と交流する機会はめったにないから(2 名)
- ・ 相手の文化をもっと知りたいから(2 名)
- ・ もっといろんな人と話したいから(2 名)
- ・ もっといろいろなことに触れてみたいから(2 名)
- ・ 英語が学びたいから(2 名)
- ・ 英語はしゃべれないが、その場にいるだけで楽しかったから
- ・ お互いの文化に触れる良い機会だから
- ・ またグータッチしたいから
- ・ 与論町のことを伝えたいから

② 機会があれば参加したい(64 名)

- ・ すごく楽しかったから(24 名)
- ・ 他国の人と交流したいから(7 名)
- ・ 他の国の文化などを知る機会になるから(6 名)
- ・ いろいろな文化に触れて世界のことを知りたいから(3 名)
- ・ もっと相手国のことを知りたくなったから(2 名)
- ・ もっといろんな曲を聞きたいから(2 名)
- ・ 交流によって友達ができるから
- ・ 友達と楽しめるイベントだから
- ・ 愉快的な音楽を聞きたいから

- ・ 演奏を聞いて踊って楽しかったから
 - ・ 勝手に作り上げている外国のイメージが変わって良い機会だった
 - ・ 普段できない体験ができるから
- ③ あまり参加したくない(0 名)
- ④ 参加したくない(0 名)
4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(19 名)
- ② パブリックビューイング(11 名)
- ③ 自宅のテレビ(97 名)
- ④ Website(3 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ 素晴らしいスティールパンの演奏が聞けて良かった(12 名)
 - ・ 楽しい曲に合わせてダンスをするのが楽しかった(9 名)
 - ・ スティールパンを初めて知ったがきれいな音だった(8 名)
 - ・ スティールパンでいろんな音楽が聞けて楽しかった(7 名)
 - ・ スティールパンを演奏してみたかった(7 名)
 - ・ アンティグアの人たちは背が高かった(5 名)
 - ・ アンティグアの人たちはとてもやさしかった(5 名)
 - ・ ホスタウンの交流を続けてきずなを深めたい(5 名)
 - ・ 今回はアンティグアだったがもっと他の人とも交流したい(3 名)
 - ・ 他国の人と交流することはあまりないので良い経験になった(3 名)
 - ・ 外国との交流は初めての経験で楽しかった(3 名)
 - ・ 音楽を通じた交流は音色もきれいで楽しかった(3 名)
 - ・ アンティグアのスポーツと音楽を知ることができた(3 名)
 - ・ 最初は楽器がどうして鳴るのだろうと思ったしきれいな音色だった(2 名)
 - ・ もっとこのような機会を増やしてほしい(2 名)
 - ・ 相手国の人と英語で話せるようになりたい(2 名)
 - ・ 海外への興味がわいた(2 名)
 - ・ もっと違う国とも交流をしたい(2 名)
 - ・ 質疑応答をとおしてアンティグアのことについて色々知ることができた(2 名)
 - ・ いろんなことを知ることができて楽しかった(2 名)
 - ・ アンティグアの文化は与論と似ていたので見てみたい
 - ・ アンティグアは知らない国だったが今回の交流によって知ることができた
 - ・ アンティグアから遠く与論まで来てくれて感謝です
 - ・ 不思議な形をしたスティールパンはすぐに仲良く楽しめる楽器だった
 - ・ アンティグアのスティールパン演奏は心が温まりました

- ・ このような機会は人生の中でも数回しかできないと思う
- ・ 見たこともない楽器で相手の国への興味がさらに深まった
- ・ 将来の夢を聞けると想像できるぐらい良い人たちでした
- ・ 今回の交流は想像以上であった
- ・ とても特徴のある楽器で与論中学校の心が一つになった
- ・ 音楽がみんなを笑顔にすることができた
- ・ お互いの文化の発表会をしたかった
- ・ 与論から留学生を出してみたら良いと思う
- ・ もっと長い時間の交流がしたかったし、直接会話もしたかった
- ・ 今後は与論のおもてなしをしたいと思った
- ・ 今度は一緒に遊んでみたい、ホストファミリーになりたい
- ・ 英語の勉強になりとても良かった
- ・ いろんな国を知り、いろんな国の人と交流する良い機会である
- ・ 他国の文化を知ることにより与論の良さを感じることもできた
- ・ ホストファミリーとして異なる文化と触れることができた
- ・ ホスタウンとなることで知らない国と交流することができた
- ・ 言葉は通じなくても音楽や遊びをとおして交流できた

自治体名:和泊町 城ヶ丘中学校(30 名)

1. ホスタウンの取組をご存じでしたか？

- ① はい(11 名)
- ② いいえ(18 名)

2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。

- ① はい(27 名)
 - ・ とっても緊張したけど、英語で城ヶ丘中学の紹介がしっかりできたと思う。
 - ・ 相手国の文化を知ることができて良かった。コミュニケーションをとることは難しかったけどいい勉強ができた。
 - ・ 相手国のことを本人から聞いたから。(国旗のこと、国の食べ物)
 - ・ 相手の名前や好きなものを知ることができたからです。
 - ・ その方々の好きな色や、その国のことを知ることができて良かった。一緒に活動できて楽しかったからです。
 - ・ 他国の選手との交流で同い年でがんばっている人がいるのがすごいと思う。
 - ・ 緊張はしましたが、昔ばなしを読んだり、学校の紹介をしたり、質問をとおして喜んでもらえたことがうれしかったからです。
 - ・ 海外の方が島に交流に来てくださることがあまりないので、とてもいい経験になったからです。

- ・ 「ももたろう」を英語で読んだり、「えらぶゆりの花」を踊って楽しかったから。
- ・ 国や、肌の色や、言葉の違う人と会うことができてとても勉強になった。
- ・ 外国の人と関わるのが少ないと思うので交流できて良かった。
- ・ 住んでいる地域の特徴を知ることができたから
- ・ 英語を学ぶ機会があったので良かった
- ・ 外国人と初めて英語で話したから
- ・ 他の国の人と触れ合えたから
- ・ 違う国の人と会うことができたから
- ・ 他の国の文化を知ることができたから
- ・ 色々な文化を知りたい
- ・ 違う言語の人たちと触れ合えたから
- ・ 違う国の人とふれあって、その国のことがわかった。
- ・ 一緒に踊ったこと
- ・ パラリンピックの選手に会えたから
- ・ 自分たちの発表が上手にできたから
- ・ いという話してくれたから
- ・ お互い知り合えたこと

② いいえ(1 名)

- ・ 話を聞くだけで面白くなかった

③ 無記入(2 名)

3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(8 名)

- ・ 今回の交流が楽しかったから(3 名)
- ・ もっと交流して理解を深めたいと思ったから
- ・ 他の地域の人々と交流して、それぞれの文化や特徴を知ることができるのは楽しいから
- ・ 海外に興味があるのでいろんな国の方と交流して色々な経験をしたいから
- ・ またパラリンピックの選手に会いたいから

② 機会があれば参加したい(19 名)

- ・ 他の国の人との交流ができるから(4 名)
- ・ 楽しかったから(3.名)
- ・ いろんな国の人と会えるから(2 名)
- ・ 少しでも英語で話を聞くことができればいいなと思ってます
- ・ 外国の人との交流が意外と楽しかったから
- ・ また交流してみたいから
- ・ できるだけ多くの異文化の人たちと交流したいから

- ・ 違う国の人とふれあうのも大事だと思った
 - ・ オリンピックについて知りたいから
 - ・ 外国人と会ってみたい
 - ・ 勉強になるから
 - ・ 興味があるから
 - ・ 参加したいと思わないし、参加したくないとも思うから
- ③ あまり参加したくない(1 名)
- ・ めんどくさい
- ④ 参加したくない(2 名)
- ・ 参加してもいうことがない
 - ・ インドア派だから
4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(5 名)
- ② パブリックビューイング(1 名)
- ③ 自宅のテレビ(20 名)
- ④ Website(3 名)
- ⑤ 無記入(1 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ 初めて「ホスタウン交流」をして楽しかったです。英語を聞き取るのは難しかったけど少しだけわかりました。また一緒に踊ってくれたのでうれしかったです。オリンピックではぜひ応援したいです。
 - ・ 一度の交流ではそれぞれの価値観、国の文化、人柄などは分かりません。多くの交流を通して多くの人と関わり、私たちは成長をして選手の方々のサポートをしたいと思っています。お互い理解をして深めていきたいです。
 - ・ とても緊張はしましたが、質問をしたときに自分の目を見て聞いてくれたし、「ももたろう」の発表もプロジェクターに目を向けて聞いてくれたのでうれしかったです。とても思い出に残ったので交流できて本当に良かったです。
 - ・ 今回はこのような交流をさせていただきありがとうございました。とても良い経験になりました。あまり知らなかった国ですが、このような交流を通してつながることができてうれしかったです。またこのような交流があったらいいです。
 - ・ このような交流をして欲しいです。理由は世界のいろいろな人々と交流してみたいからです。なかなか外国人と交流することがないのでホスタウンは交流する良い時間だと思います。
 - ・ 言葉が通じなくても交流できたので良かったです。またその国の特徴なども知ることができた。
 - ・ この交流ではセントビンセント・グレナディーン諸島から来て下ったのでその国のことを

知ることができた。他の国から来る人がいたらいろいろ聞いてみたいです。

- ・ セントビンセント・グレナディーン諸島のパラリンピック候補選手の人が来てびっくりしました。もし代表になってテレビに出たら応援したいです。そして金メダルを取って欲しいです。
- ・ 今回の交流では英語で話したりするのが難しかったけれど、他国の自然や文化を知ることができました。また機会があれば参加したいです。
- ・ 交流会があるまで分からなかったセントビンセント・グレナディーン諸島の人達との交流は思った以上に楽しかった。城ヶ丘中学を英語で紹介したり、三味線で「永良部ゆりの花」を演奏したのは思った以上に楽しかった。パラリンピック候補選手の人に実際に高跳びを見せて欲しかった。
- ・ 海外の人と交流することができて良かったです。交流したおかげで相手の国の文化を知ることができました。それと相手の人と一緒に「エラブユリの花」を踊ることができて良かったです。これからもこのような体験ができれば良いです。
- ・ 日本語で話していないので、なんて言っているのか分からなかったけど、外国人の人と関わることができたので良かった。
- ・ パラリンピックの候補選手がどれくらい跳べるのかと思いながら、話を聞いただけだったので、一緒に遊んだりしたかったです。でもパラリンピックに出場できたら応援したいです。
- ・ 選手が競技を行っているところを見たい。

自治体名:知名町 知名小学校(5名)

1. ホスタウンの取組をご存じでしたか？

- ① はい(1名)
- ② いいえ(4名)

2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。

- ① はい(5名)
 - ・ 外国人と一緒にスポーツをするのは初めてだったから(2名)
 - ・ 言葉が伝わらないのに一緒に卓球ができたから
 - ・ 最初は卓球のことを何も知らなかったけど、だんだんうまくなってラリーもできるようになったので楽しかったです。
- ② いいえ(0名)

3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？

- ① ぜひ参加したい(5名)
 - ・ いつも会わない人と交流したいから
 - ・ 交流したときとっても楽しかったから
 - ・ 交流したことがなかったから
 - ・ このような機会はあまりないのでぜひ参加したいです

- ・ 楽しくできたから
 - ② 機会があれば参加したい(0 名)
 - ③ あまり参加したくない(0 名)
 - ④ 参加したくない(0 名)
4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
- ① 競技会場(1 名)
 - ② パブリックビューイング(1 名)
 - ③ 自宅のテレビ(3 名)
 - ④ Website(0 名)
5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・ 相手国の言葉を知りたい。あいさつなど。
 - ・ 楽しかったからこれからも続けていきたい。パブリックビューイングでもやってみたいと思った。サッカー、ラグビー、野球、バスケなどを応援したい。
 - ・ みんなとても卓球がうまくなっていたのでびっくりしました。またこのようなことがあればやってみたいです。
 - ・ 交流した人がどこの国から来たとか、色々紹介してくれて自分の知らない国が知れた。
 - ・ 言葉もつじないのにいろいろな交流ができて楽しかったし、いっしょにいろんなことができる楽しそうだったから。

招へい国：セントビンセント・グレナディーン(3 名)

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホスタウンの取組をご存じでしたか？
- ① はい(3 名)
 - ② いいえ(0 名)
2. 今回、ホスタウンの方と交流して、楽しかったですか。
- ① はい(3 名)
 - ・ 島の皆さんはとても礼儀正しく、笑顔で一生懸命に文化交流を共有してくれた。とても有益な交流でした。日本の文化とインフラはとてもユニークです。
 - ・ 11 月 23 日の折り紙。地元の人たちとの交流は気に入りました。
 - ・ 井之川ラボの 3D カメラ。地元の人々との交流は楽しかった。
 - ② いいえ(0 名)
3. 今回のホスタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか？
- ① ぜひ参加したい(1 名)
 - ・ 他の国に関する情報を関連付けて受け取ることは常に喜ばしいことです。もっと深く交流をして、より多くの実践的な体験をしたいです。
 - ② 機会があれば参加したい(2 名)
 - ・ 私はあなた方の優しさが大好きです。島々はとても美しく優しい人々と楽しいアクティビ

ティがありました。

- ・ もっと島のことを知りたかった。美しい場所であれば参加したい。

③ あまり参加したくない(0 名)

④ 参加したくない(0 名)

4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか？(複数回答)

① 競技会場(3 名)

② 自国のパブリックビューイング(0 名)

③ 自宅のテレビ(0 名)

④ website(0 名)

⑤ ホストタウン(0 名)

⑥ 日本のパブリックビューイング(0 名)

5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。

- ・ 私の印象では東京 2020 オリンピックの現在の交流プログラムは、予想以上の素晴らしいサポートにつながるでしょう。現地の人々は彼らに提示されたイベントに参加する準備ができており、すべてのプレゼンテーションを楽しんでいました。さらに個人的には招へい者が休むためにもっと時間があれば良かったと思う。また、一般的なプレゼンテーション(パフォーマンス)の弱点を改善するために、招へい者のプレゼンテーション(パフォーマンス)を事前に提示できるようにすれば良かったと思う。
- ・ 私はセントビンセントから徳之島までの空の旅を楽しみましたが、到着後に 1 日間の猶予が与えられれば、休息が取れてその後の準備もできたと思う。また私たちがもっと遊べるゲームをもっと用意してください。もう少し長く滞在できればもっと友達ができたと思う。
- ・ 皆さんが私たちと交流に利用した方法が気に入りました。ただし私たちが旅した長距離移動のために休息とリラックスの1日を与えて欲しかったです。

招へい国:アンティグア・バーブーダ(3 名)

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取組をご存じでしたか？

① はい(2 名)

② いいえ(1 名)

2. 今回、ホストタウンの方と交流して、楽しかったですか。

① はい(3 名)

- ・ 徳之島と与論の地元の方々はとても親切で楽しかった。
- ・ とても礼儀正しい。いつでもできる限りの手助けをする準備が出来ている。いつでも笑顔でいる。
- ・ 地元の人々はとても親切で温かい心の持ち主であった。間違いなく私の滞在を楽しま

せてくれた。

② いいえ(0 名)

3. 今回のホストタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(1 名)

- ・ 地元の人々レベルのおもてなしは注目に値するし、単純に感動的である。また島は多くの体験ができる美しい場所です。

② 機会があれば参加したい(2 名)

- ・ 今回は 2 つの素晴らしい島々を体験する機会を提供してくれたので、機会があれば将来もこのプログラムに参加したい。
- ・ たくさんの楽しい体験ができそうだから。

③ あまり参加したくない(0 名)

④ 参加したくない(0 名)

4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか？(複数回答)

① 競技会場(2 名)

② 自国のパブリックビューイング(0 名)

③ 自宅のテレビ(1 名)

④ website(0 名)

⑤ ホストタウン(1 名)

⑥ 日本のパブリックビューイング(0 名)

5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。

- ・ 個人的にホストタウンの交流プログラムは素晴らしいと思う。本プログラムは日本を訪れたことが無い人々に、日本の文化体験と日本人との交流の機会を提供している。
- ・ このプログラムはとても楽しく教育的です。日本の文化は大きく異なりますが、とても面白くて楽しいです。
- ・ 現在進行中の日本の文化と人々が、アンティグア・バーブーダの文化と人々との出会い分かち合う交流プログラムは効果的である。私はこの関係がはるかに長く成長することができると思っています。これを実現させましょう！

(4) ニュージーランド・グループ

自治体名：市原市 1 名、厚木市 1 名、酒田市 2 名、倉敷市 2 名

1. 今回の交流では意義のある交流ができましたか。

- ① はい(6 名)
- ② いいえ(0 名)

2. 今回は複数の自治体が同一の相手国を対象に交流事業を行いました。単独自治体で事業を実施した場合と、費用面・手続面での事務量の比較をしてください。

■ 費用面

① 非常に安い(4 名)

- ・ 酒田市としては、市原市を会場に市原市・厚木市が受け入れた NZ の学生と交流させていただくことになったため、費用面・手続面ともに少ない負担で実施させていただくことができた。
- ・ 倉敷市は行かせていただく側だったので。

② 安い(1 名)

③ 変わらない(1 名)

④ 高い(0 名)

⑤ 非常に高い(0 名)

■ 手続面

① 非常に簡潔(2 名)

- ・ 酒田市の負担は少なかったが、会場となる市原市では、様々な調整業務が煩雑だったのではないかと思う。

② 簡潔(2 名)

- ・ 経理関連の様式が示されているのは良かった。

③ 変わらない (0 名)

④ 煩雑(2 名)

- ・ 幹事市として全体の調整が必要であったため
- ・ 複雑ではないが提出書類が多い。

⑤ 非常に煩雑(0 名)

3. ホストタウンとして、相手国との交流で重視しているのは、どのような交流ですか。

- ① 文化交流(1 名)
- ② 経済交流(0 名)
- ③ スポーツ交流(3 名)
- ④ 食の交流(0 名)
- ⑤ 人材育成(6 名)

- ・ スポーツについては、市原市のスポーツ施設や、各スポーツ団体との連携を活かした交流が見込めるため。人材育成については、NZ が教育を産業としており、英語圏であるとともに留学受入の優れた環境を有しており、国際感覚に優れた人材の育成に資すると考えられるため。
- ・ ニュージーランドは教育先進国でもあり、留学環境などもとても充実している。厚木市ではグローバル教育に力を入れており、次代を担う子どもたちになるべく国際交流や、留学プログラムなどを実施し、英語教育に役立たせている。
- ・ 酒田市としてはホストタウン事業を推進するにあたり、「地域の国際化の進展と人材育成」「東京オリパラの機運醸成とスポーツへの興味喚起」「共生社会の推進ノーマライゼーションと障がい者スポーツの振興」の3つを掲げているため。
- ・ NZ アスリートとの交流を通じてオリパラ気運の醸成とスポーツへの興味を喚起するとともに、文化の相互理解による地域の国際化の進展と人材育成、NZ をお手本としたノーマライゼーションの普及等の共生社会の実現を目指しているため。
- ・ 様々な事業を通して人材を育成していくことが、地域のグローバル化や活性化につながると考えるから。
- ・ 長年にわたり姉妹都市を通じて青少年交流を続けてきたこと、これからの倉敷市の国際交流を支える人材を育成したいから。

4. 交流の利点は、どのようなことと考えますか。

- ① 国際化による地域の活性化(1 名)
- ② 相互交流による人材の育成・確保(4 名)
- ③ 地域住民のグローバル化(4 名)
- ④ その他(0 名)

5. 今後、交流を継続するうえで、どのような課題がありますか。

- ① 経費の負担(5 名)
- ② 食への対応(2 名)
- ③ 言語への対応(4 名)
- ④ 文化の違いに対する理解不足(0 名)
- ⑤ 地域の理解度(0 名)
- ⑥ 日本までの距離(0 名)
- ⑦ その他(0 名)

6. ホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想などを自由にご記入下さい。

- ・ オリンピック・パラリンピック後も交流が継続するよう、ホストタウン交流に係る様々な支援を継続していただきたい。
- ・ 今回は各自治体の予算だけでは出来ないような貴重な交流の機会になり、厚木市の生徒およびワイヌイオマタハイスクールの生徒も大変喜んでおり、貴重な経験になったと感じていた。

- ・ この度の交流事業では、受け入れてくださった市原市様をはじめ皆様には様々な面で大変お世話になり、心より御礼申し上げます。本市から参加した生徒達はこのような交流に参加するのは全員初めてでしたが、2日間という短い期間の中で彼女達の成長を感じる場面もあり、改めて、顔を合わせた交流の効果の大きさを感じたところです。内容も充実しており、本市でのホストタウン交流においてもお手本となるものばかりでした。今後もニュージーランドのホストタウンである他自治体の皆様とのつながりを大切に、選手の皆様にはトレーニングに専念していただける環境を、地元の皆様には多くの交流の機会を提供できるよう努めてまいります。
- ・ 参加させていただいた生徒たちは、英語でのコミュニケーションに不安を持ちながらも、NZ の生徒たちと共同作業を重ねる中で、徐々にコミュニケーションをとることができるようになったことが嬉しく、自信になった様子だった。各市から少人数で参加し、心細い状況の中で、他市や海外の同世代の青少年と行った交流は、彼女たちの成長に繋がる良い交流になったと感じた。酒田市はトライアスロン NZ のホストタウンとなっており、NZ トライアスリートを受け入れる際には、市内トライアスロン関係者及び高校生を中心とする生徒と交流の機会を設けているが、そうではない一般市民をいかに巻き込んでいくかがポイントであり、課題と感じている。
- ・ やはり将来を担う若者に出来る限り多くの機会を提供することが大切だと思う。
- ・ ニュージーランドのホストタウンの自治体は積極的に活動されているところが多く、今回の交流をはじめ、さまざまな事業を連携して行うことができ、ありがたく思っています。

自治体名：市原市(4名)、厚木市(3名)、酒田市(4名)、倉敷市(4名)

1. ホストタウンの取組をご存じでしたか？

- ① はい(12名)
- ② いいえ(3名)

2. 今回相手国・地域の方と交流して、楽しかったですか。

- ① はい(15名)
 - ・ 相手から話しかけてくれて、いろいろな地域と交流ができて良かったから。
 - ・ 言葉がわからなくても、なんとなくジェスチャーなどで意思が通じたりしたから。
 - ・ ニュージーランドの子どもたちと一緒に作業してお話して、自分が話したことが伝わるとうれしかったから。
 - ・ 市原市の魅力を沢山伝えることができた。外国の人々の文化も理解できて良かった。
 - ・ 昔遊びや太巻き作りを通して国や地域関係なく仲良くなれ、また日本とニュージーランドの文化の違いと肌で感じられたから。
 - ・ NZ の人たちと話して、マオリの文化にふれられて、ニュージーランドが好きになったか

からです。そして日本の文化を教えながらコミュニケーションをとることができて嬉しかったからです。

- ・ NZ 以外にも国内でさまざまな地域の人と交流できたから。昔遊びやもちつき、たこ作りなどいろんなアクティビティがあったから。
- ・ 言語や国、県が異なっても通じ合えたのが面白かったです。いろいろなことが体験できて面白かったです。
- ・ 企画のときに新しく班になった子や地域の方とたくさん交流できたから。
- ・ 言葉の違いで高い壁があったけど、それでも頑張って話そうとしてくれたり、翻訳機(ポケトーク)を使ったりして嬉しかったから。
- ・ 交流がいろいろあり、友達もできたから
- ・ 住む場所は違うけど、みんなフレンドリーで、一つ活動するごとにどんどん仲良くなれたから
- ・ たくさんの人との交流によって、たくさん経験を得ることができたから
- ・ 県や国を越えてたくさんの人と交流ができて、新しいコミュニティを知ることができたから
- ・ 違う地域の人と話していて楽しかったから

② いいえ(0 名)

3. 今回の地域交流に参加して、今後もまたイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(13 名)

- ・ またこんなすばらしい交流会があるのだったら、ぜひ参加したいです。他国の人と話すことがあまりないから。
- ・ また異国の人々と交流がしたいから。
- ・ 今回の交流会でたくさん学んだことがあったし、もっと会話をしたいと思ったから。
- ・ このイベントに参加して色々な人と交流できたことによって自分の世界が広がったから。
- ・ これまで NZ の人たちと交流して、自分が知らなかった事がたくさんあって、いろんな発見があったからです。
- ・ 今回、貴重な体験をさせていただいたし、もっといろんな人たちと関わってみたいから。
- ・ 交流してみてもとても楽しかったし、色んなことがわかったから
- ・ 県や国を超えて友達になり、普段しないような会話ができて楽しかったから
- ・ 楽しかったから
- ・ どれも貴重な体験だったうえに、一生心に残る思い出をたくさん作ることができたから
- ・ またそのような経験・体験をしたいから
- ・ 今回とても充実した 2 日間を過ごせたから
- ・ 今回会った人にまた会いたいから

② 機会があれば参加したい(2 名)

- ・ 今後もイベントがあればもっと英語の勉強をしてコミュニケーションをしたいと思いました。

- ・ 交流して楽しかったし話すこともできたから
- ③ あまり参加したくない(0 名)
- ④ 参加したくない(0 名)
- 4. ホスタウンの相手国選手をどこで応援したいと思いますか？
 - ① 競技会場(5 名)
 - ② パブリックビューイング(0 名)
 - ③ 自宅のテレビ(9 名)
 - ④ Website(1 名)
- 5. ホスタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
 - ・ ニュージーランドの人々と楽しく話したり、あるいは遊んだりして本当に楽しかったです。それに加えていろいろな地域の人たちとも交流ができて友達がいっぱいできたので良かったです。このような機会に招いてくださり本当にありがとうございました。
 - ・ このような場を作ってくださいありがとうございました。僕は昨年、京葉小学校でニュージーランドの皆さんと交流をさせていただき、今回の交流会もとても楽しく参加させていただきました。昔遊びのレクで友達がたくさんできました。また機会があれば参加したいです。
 - ・ ポケットークがあったので会話がしやすくて良かったです！ たこ作りは共同作業でとても楽しかったですが、先生の方が少し厳しかったので困っている子がいました。今回の交流会は本当に楽しくてお別れするのが本当にさびしかったです。ありがとうございました。
 - ・ 外国(NZ)の人々や酒田市、倉敷市、厚木市などの他中学校とも一緒に交流ができて良かったです。日本の昔遊びは良かったのですが、オリンピックが近かったのでオリンピック競技をやりたいと僕は思ってしまいました。次回このような交流会をうけるときはサッカーを外国の人たちとやってみたいと思いました。
 - ・ 英語を使って相手と話すことや相手が何を言っているか分からず辛いこともありましたが、一生懸命に身振り手振りで伝えられた時はうれしかったです。夏のニュージーランドのホームステイ体験とは違い、相手をおもてなしする側になってみて、とても気がつかいました。
 - ・ 今回、ホストファミリーとして受け入れてみて、聞き取りはできても、伝えることが困難でした。でも知っている単語を組み合わせ、必死に伝えると分かってくれた時は嬉しかったし、ホッとしました。私はすぐマオリの文化である歌に興味をもっていて、口ずさむぐらい大好きです。なので今度、NZ の人たちと会う時は歌の意味を教えてもらいたいです。すぐきちょうな体験ができて一生の思い出です。ありがとうございました。
 - ・ 昨年の Fly to NZ に引き続き今回も貴重な体験をさせていただきありがとうございました。私もやったことのないプログラムがたくさんあり、NZ の子だけでなく、国内の人とても楽しめる内容でした。約一週間も NZ の子と一緒にいるのはきんちょうでしたが、すごく気をつけてくれる優しい子で良かったです。もっと英語がしゃべれるようになりました。

い！ もっと学びたい！ そう強く思う今日この頃です。本当にありがとうございました。

- ・ いろんな発見や新しく体験したことがあったけど、様々な経験ができたので参加して良かったと思いました。体験を通して多くの日本人中学生、ニュージーランドの高校生、サッカースクールの人たちと仲良くなれて本当に良かったです。オリンピック・パラリンピックのホストタウンという機会で、こんなに良い体験ができてあつという間の 2 日間でした。本当にありがとうございました。
- ・ とても楽しかったです。日本のホストタウンの友達もできたり、ニュージーランドの子どもと話すことができました。ポケットークがとても便利だったので、数を増やして欲しいです。文化の違いや歌・ハカも見せてくれて、たくさんの新しい発見がありました。
- ・ 規模がこんなに大きい交流会に参加したのが初めてだったので、最初のうちは不安や緊張もあったけど、他の県の人たちも年齢が近いのもあったせいか、ものすごくフレンドリーに接してくれてうれしかったです。一泊二日と短い間にもかかわらず、交流相手の良いところや特徴がとても良くわかり、内面を知ることもできたと思います。交流イベント等にこれからも参加したいと思いました。
- ・ 中学校などへ講演会をしてホストタウンだと知ったので、もっといろんな所で紹介して欲しいです。
- ・ 参加させてもらったものは、どれも楽しく自分の貴重な体験となった。もう一度、倉敷市の地域交流に参加したい。
- ・ 今回たくさんのことが体験でき、たくさんのことを知ることができ、地元の子が他の地域の子と交流ができて楽しかったです。また国を越えて、どの国の人も優しくとても良かったです。またたくさんの人と交流したいです。
- ・ 地元の人との交流ができて自分自身も新たな知識を得ることができました。また様々な場面で「ポケットーク」が活用されており、必要性や重要性を学びました。1 泊 2 日とは思えないほどの人間関係や経験ができて、とても楽しかったです。
- ・ 良い体験になると思うので、いろんな人にもやってみて欲しいです。

招へい国：ニュージーランド オークランドユナイテッド FC アカデミー(22 名)

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取組をご存じでしたか？

- ① はい(22 名)
- ② いいえ(0 名)

2. 今回、ホストタウンの方と交流して、楽しかったですか。

- ① はい(22 名)
 - ・ 人々は親切で、いつも喜んで助けてくれました。また私たちのために素晴らしい交流プログラムも提供してくれました。
 - ・ 彼らは非常に友好的であり、私が前に見たことのない文化的側面を見せてくれました。
 - ・ 人々はとても歓迎し、友好的で、親切で、楽しかったです。

- ・ 彼らは本当に素敵で親切でした。あなたに微笑んであなたに手を振ってくれます。
- ・ 異文化の人と知り合えて良かったです。
- ・ たくさんの友達を作り、日本の文化を体験することを楽しみました。
- ・ 他の文化について学ぶのは楽しくて面白かったです。
- ・ たくさんの新しい人々/友人と出会い、日本の伝統ゲームを楽しみました。
- ・ 人々はいつも親切で礼儀正しかったです。また私たちがプレイしたサッカーは楽しかったです。なぜなら、ゲーム内容が悪くても、それが楽しかったからです。
- ・ 彼らは社会的で歓迎的な思いやりを持っていました。
- ・ たくさんのアクティビティと市原市の地元の人々との交流が気に入りました。
- ・ 彼らはとても歓迎して親切にしてくれました。またとても面白くて、すべてに渡って助けられました。
- ・ 異なる文化を持つ人々に会えて良かったです。
- ・ 彼らが何を言っているのかわからなかったのに、彼らは私に親切でした。
- ・ 人々は素晴らしかったし、私は日本の文化と彼らがすることを体験するのが好きだった。
- ・ 地元の人たちは私たちをもてなすことに多くの努力を払っていました。私は再び今回のような機会を得たいと思っています。
- ・ 日本文化を見て、新しい人と出会い、新しいことにチャレンジしました。
- ・ 彼らは話をするのにとても親切で楽しい人たちでした。
- ・ 私は日本の文化が大好きで、新しい人と出会い、新しいことを試してみました。
- ・ 彼らはとても親切で親切で、何をすべきかを示してくれました。
- ・ はい。彼らは街中を一巡して見せてくれたから。

② いいえ(0 名)

3. 今回のホストタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(4 名)

- ・ それは一生に一度の経験になることでしょう。
- ・ ホストは私たち全員を歓迎してくれて、彼らの伝統を教えてくださいました。
- ・ 私たちが参加するイベントを通して、とても楽しいことを学びました。
- ・ とても楽しい人生経験でした。

② 機会があれば参加したい(17 名)

- ・ もしチャンスがあれば日本の伝統文化体験にまた参加してみたいです。
- ・ 彼らは素晴らしいおもてなしと、素晴らしい施設を提供してくれました。
- ・ 一生に一度の経験であり、私はそれをとても気に入りました。
- ・ これらのイベントは私に文化的な側面でクールな学習体験を与えてくれました。
- ・ 新しいことや文化を体験するために参加してみたいです。
- ・ 楽しかったし、人々は親切で対話的だった。
- ・ 市原市はとても歓迎してくれており、おもてなしが良かったからです。

- ・楽しかったし、素晴らしい施設があるからです。
 - ・もっといろいろな文化体験を楽しみたいです。
 - ・素晴らしい時間を過ごしましたが、ニュージーランドから来るには長い道のりでした。
 - ・今回は最高の経験でした。
 - ・楽しくて良い経験でした。
 - ・市原市の人々は私たちをとて歓迎してくれており、私たちにとても素敵なホテルを提供してくれました。また私たちは自分たちのサッカープレイをエンジョイできました。
 - ・文化と彼らがやりたいことを学ぶのはとても楽しい経験だったからです。
 - ・目新しく楽しい体験プログラムだった。
 - ・愉快で本当に楽しかった。
- ③ あまり参加したくない(1 名)
- ・人口が多く、ビルなどがある都市が好きだから。
- ④ 参加したくない(0 名)
4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか？(複数回答)
- ① 競技会場(7 名)
 - ② 自国のパブリックビューイング(2 名)
 - ③ 自宅のテレビ(8 名)
 - ④ website(0 名)
 - ⑤ ホストタウン(4 名)
 - ⑥ 日本のパブリックビューイング(1 名)
5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。
- ・この交流プログラムは日本の遊びや伝統的な食べ物を体験できてとても楽しかったです。いつかまたこのような体験をして交流をしたいです。
 - ・町は本当にクールでした。思ったほどの交通量もありませんでした。
 - ・この体験は忘れられないものであり、私が過ごした時間はずっと楽しめました。2020 オリパラ文化交流を本当に楽しむことができました。
 - ・新しい遊びと新しい文化があり、食べ物を作る新しい方法にも発見がありました。
 - ・このプログラムに参加できてとても楽しかったです。なぜなら、さまざまな場所から来た新しい人々に会うことができたからです。
 - ・交流プログラム、特に風の交流プログラムが最高でした。
 - ・個人的には素晴らしい街だと思います。人々は親切で、様々な体験ができました。
 - ・ニュージーランド人を市原市に滞在させることは、お互いを知りことができ良いことだと思います。
 - ・彼らはオリンピックとパラリンピックを開催する準備ができていました。きっと良い仕事をするでしょう。

- ・ 体験したすべての活動を本当に楽しんで日本について学びました。また親切な日本人に会うことはとてもクールな経験でした。
- ・ 他の人とつながり、他の人とさまざまなゲームやプログラムをするのを楽しみました。
- ・ 今回のプログラムは、通訳者と一緒に他のメンバーと簡単に参加できて楽しかったです。
- ・ 私は日本の文化が好きで、みんながいかに歓迎してくれたか、新しい人と出会うことができました。
- ・ とても楽しかったし、感動しました。
- ・ 素晴らしい経験だったと思います。
- ・ 誰もが素晴らしく歓迎してくれました。しかし一部で退屈なプログラムもありました。
- ・ 個人的には少し寒かったと思いますが、数日後には慣れました。様々なアトラクションも楽しめました。
- ・ ちょっと寒すぎたと思うけど、大丈夫でした。
- ・ 町は見栄えがよくありませんでしたが、思ったほどの交通量もありませんでした。どこでも無料の wifi がありました。
- ・ 私たちはサッカーと食べ物を本当に楽しみました。
- ・ 東京は本当に活気のある場所でした。交流プログラムに多くの人や業者を配置しており、彼らのゲームで遊んだりするのが楽しかったです。
- ・ 風が絡み合う日本文化体験をすることができた。

招へい国：ニュージーランド ワイヌイオマタハイスクール(5 名)

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取組をご存じでしたか？
 - ① はい(2 名)
 - ② いいえ(3 名)
2. 今回、ホストタウンの方と交流して、楽しかったですか。
 - ① はい(5 名)
 - ・ 彼らは親切で敬意を持って接してくれました。
 - ・ 彼らは親切だけでなく、新しい人と知り合うことを恥ずかしがらず、まるで自分が 1 つのチームであるかのように感じさせてくれました。
 - ・ 彼らはとても歓迎してくれて、短期間の来日中において、とても気を遣ってくれたからです。
 - ・ 素晴らしい人たち、とても親切で、敬意を持って、彼らができる限り最高の方法でおもてなしをしてくれました。彼らの素晴らしさを説明できる言葉はありません。
 - ・ ここから世界中の人々となつなげることができます。将来の素晴らしい関係を築くことができます。
 - ・ 日本文化の遊び、餅つき、巻寿司作り、凧作り、さらにマオリの歌と一緒に歌う体験を

する素晴らしい機会でした。

② いいえ(0 名)

3. 今回のホストタウン交流に参加して、またイベントがあれば参加したいですか？

① ぜひ参加したい(5 名)

- ・ 厚木市の倉持さんは私の好きな人で、私たちを大いに助けてくれたからです。
- ・ 日本での 5 日間は、無条件の愛が示されたために、ニュージーランドに戻りたくなかった。
- ・ 日本はたくさんの素敵な人でいっぱいの素敵な場所だからです。
- ・ 繰り返しになりますが、このイベントは 2 国間の良好な関係を築き、お互いの文化を認識する良い機会となります。

② 機会があれば参加したい(0 名)

③ あまり参加したくない(0 名)

④ 参加したくない(0 名)

4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどこで応援したいと思いますか？(複数回答)

① 競技会場(3 名)

② 自国のパブリックビューイング(0 名)

③ 自宅のテレビ(1 名)

④ website(0 名)

⑤ ホストタウン(2 名)

⑥ 日本のパブリックビューイング(1 名)

5. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に関して、今回の交流も含め、ご意見・ご感想など自由にご記入下さい。

- ・ ホストタウンで過ごす時間が大好きでした。
- ・ この国を訪問して、その文化と彼らが何であるかを本当に知るように、私は誰にも強くお勧めします。初めての訪日経験は最高のものとなりました。Arigatou gozaimashita!
- ・ この経験がどれほど素晴らしいかを説明する言葉が見つかりません。ここに来て日本を体験し、人々、学校、文化に興味を持ったのは私の誇りです。再びこの交流を実施して、お互いの絆を強化できることを期待しましょう。大きな愛を！ ありがとうございます。
- ・ このような素晴らしい機会を得ることができたことを本当に感謝しています。よく組織されているサポートスタッフのおもてなしに本当に感銘を受けました。どうもありがとうございます！